

TASCAM

D01238001E

DR-44WL

Linear PCM Recorder

リファレンスマニュアル



目次

第1章 はじめに4	
本機の概要.....4	
本書の表記.....4	
商標および著作権に関して.....5	
SDカードについて.....5	
取り扱い上の注意.....5	
第2章 各部の名称と働き6	
トップパネル.....6	
フロントパネル.....7	
左サイドパネル.....7	
右サイドパネル.....8	
ボトムパネル.....8	
ホーム画面.....9	
録音画面.....10	
メニューの構成.....11	
メニューを使う.....11	
操作の基本.....12	
第3章 準備13	
電源の準備.....13	
電源について.....13	
単3形電池で使用する.....13	
ACアダプターで使用する.....13	
コンセントプラグの交換方法.....13	
外付けバッテリーパックで使用する（別売）.....14	
USBバスパワーで使用する.....14	
電源をオンにする／オフ（スタンバイ状態）にする.....14	
電源をオンにする.....14	
電源をオフ（スタンバイ状態）にする.....15	
レジューム機能.....15	
言語を選択する.....15	
間違った言語を選択してしまった場合.....15	
日時を設定する.....16	
SDカードを挿入する／取り出す.....16	
挿入する.....16	
取り出す.....16	
SDカードのライトプロテクトスイッチについて.....17	
SDカードを使えるようにする.....17	
内蔵スピーカーの出力をオン／オフするには.....17	
モニター用機器を接続する.....17	
再生の音量を調節する.....18	
入力の設定をする.....18	
内蔵ステレオマイクで録音する.....18	
外部マイクで録音する（EXT MIC IN）.....18	
外部機器から録音する（LINE IN）.....18	
動作モードの選択.....19	
モードを設定する.....19	
モードの確認.....19	
グリップを取り付ける.....19	
シューマウントアダプターを取り付ける.....19	
第4章 録音20	
録音モードについて.....20	
ファイルの保存先を設定する.....20	
ファイル形式／サンプリング周波数を設定する （4CHモードのみ）.....20	
入力レベルを調節する.....21	
入力ゲインを設定する.....22	
ファントム電源について.....22	
入力設定画面の設定.....23	
チャンネルのリンクを設定する（4CHモードのみ）.....23	
トラックの入力を設定する（MTRモードのみ）.....24	
ディレイ項目の設定.....24	
ローカットフィルターを設定する.....25	
レベルコントロール機能を使う.....25	
4CHモードで録音する（4CHモードのみ）.....26	
4チャンネル録音する.....26	
4チャンネル録音時のファイル名.....26	
MTRモードで録音する（MTRモードのみ）.....26	
録音中にファイルを切り換えて録音を続ける （トラックインクリメント、4CHモードのみ）.....26	
録音中に手でトラックインクリメントする （マニュアルトラックインクリメント）.....26	
設定した時間で自動的にトラックインクリメントする （オートトラックインクリメント）.....27	
録音を自動で開始する （オートレック、4CHモードのみ）.....27	
録音開始の少し前から録音する （プリレック、4CHモードのみ）.....28	
セルフタイマー機能.....28	
異なる入力レベル／フォーマットで同時に2系統の録音をする （デュアルREC、4CHモードのみ）.....29	
デュアル録音の設定をする.....29	
デュアル録音を開始する.....29	
デュアル録音時のファイル名.....29	
録音中にマークを付ける.....30	
録音中に手でマークを付ける.....30	
録音中に自動でマークを付ける.....30	
マークの位置への移動.....31	
MSマイクを使う.....31	
パンチイン／アウト（MTRモードのみ）.....32	
手でパンチイン／アウトを行う.....32	
自動でパンチイン／アウトを行う（オートパンチ機能）.....32	
録音時間について.....33	
第5章 ファイルやフォルダーの操作（4CHモードのみ）34	
ファイルブラウザ画面内のナビゲーション.....34	
ファイルブラウザ画面内のアイコン表示.....34	
ファイル操作.....34	
フォルダー操作.....36	
新しいフォルダーを作る.....37	
第6章 ソングの管理（MTRモードのみ）38	
ソング操作.....38	
ソングをロードする.....38	
新しいソングを作成する.....39	
ソング名を変更する.....39	
ソングを消去する.....40	
第7章 再生41	
再生する.....41	
一時停止する.....41	
停止する.....41	
早戻し／早送りをする（サーチ）.....41	
再生位置を移動する.....41	
再生するファイルを選択する（スキップ）.....41	
特殊な再生（再生コントロール機能）.....41	
再生コントロール機能の設定.....41	
指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）.....42	
IN点（始点）またはOUT点（終点）のみを消去する.....42	
再生スピードを変える（VSA機能）.....42	

キーコントロール再生.....	43	(プロジェクト 1/2、4CHモードのみ).....	64
再生中に手動でマークを付ける.....	43	プロジェクト情報ページ2	
指定したマークを消去する.....	43	(プロジェクト 2/2、4CHモードのみ).....	64
マークスキップモードを設定する.....	44	カード情報ページ (カード).....	64
第8章 QUICKボタンの操作.....	45	システム情報ページ (システム).....	65
QUICKボタンの概要.....	45	環境設定 (システム設定).....	65
クイックメニューの操作.....	45	ファイル名の形式を設定する.....	65
クイックメニューを閉じる.....	46	言語を選択する.....	66
選択ファイルを削除する		初期設定に戻す.....	66
(クイックデリート、4CHモードのみ).....	47	SDカードをフォーマットする.....	66
選択ファイルを分割する (4CHモードのみ).....	47	電源/ディスプレイの設定 (電源/画面設定).....	67
選択ファイルを手動で分割する (ファイル分割).....	47	電源のオートパワーセーブ機能の設定.....	67
選択ファイルを自動で分割する (マーク分割).....	48	電池の種類の設定.....	67
トラックを消去する (MTRモードのみ).....	48	ファントム電源の電圧値の設定.....	67
トラックバウンス (MTRモードのみ).....	49	バックライトの設定.....	67
トラックバウンスを行う.....	49	ディスプレイのコントラスト調節.....	67
バウンス結果を確認する.....	49	ピークホールドの設定.....	67
ミックスダウン.....	50	第14章 メッセージ.....	68
マスタートラックをロードする (MTRモードのみ).....	50	第15章 トラブルシューティング.....	69
第9章 ミキサー.....	51	第16章 仕様.....	70
ミキサーを設定する.....	51	定格.....	70
第10章 便利な機能.....	52	入出力定格.....	70
チューナー機能.....	52	アナログオーディオ入出力定格.....	70
クロマチックチューナーモード.....	52	コントロール入出力定格.....	70
オシレーターモード.....	53	オーディオ性能.....	70
メトロノーム機能.....	53	Wi-Fi.....	70
リバーブ機能.....	54	一般.....	70
リバーブを設定する.....	54	寸法図.....	71
リバーブタイプのプリセット一覧.....	54		
XRI 情報記録機能を設定する (4CHモードのみ).....	55		
XRI 情報を見る (4CHモードのみ).....	55		
XRI 情報を削除する (4CHモードのみ).....	55		
第11章 パソコンと接続する.....	56		
パソコンへファイルを取り出す.....	56		
パソコンからファイルを取り込む.....	57		
パソコンとの接続を解除する.....	57		
第12章 Wi-Fiを使う.....	58		
本機とスマートフォンをWi-Fiで接続する.....	58		
専用アプリケーション (DR CONTROL) の			
入手・インストール方法.....	58		
Wi-Fiモードの選択.....	58		
本機と外部機器 (スマートフォン/タブレット/パソコン)			
を直接Wi-Fi接続する (直接接続モード).....	58		
本機と外部機器 (スマートフォン/タブレット/パソコン)			
をルーターを経由してWi-Fi接続する			
(ルーター経由モード).....	60		
DR CONTROLを起動する.....	61		
本機とパソコンをWi-Fiで接続する.....	62		
専用ソフトウェア (TASCAM DR FILE TRANSFER) の			
入手・インストール方法.....	62		
DR-44WLとパソコンを直接Wi-Fi接続する			
(直接接続モード).....	62		
本機とパソコンをWi-Fi接続する場合 (2回目以降).....	63		
第13章 各種設定および情報表示.....	64		
情報を見る (インフォメーション).....	64		
プロジェクト情報ページ1			

第1章 はじめに

本機の概要

- 記録メディアにSD / SDHC / SDXCカードを採用したコンパクトサイズのオーディオレコーダー
- X-Yポジションに配置された高性能な指向性ステレオマイクを搭載
- MSマイクに対応したデコード機能を搭載
- 同時に最大4チャンネルの録音が可能
- 4トラックMTR機能搭載
- スマートフォンなどからのリモートコントロールや本体のファイルの転送、オーディオ再生を可能にするWi-Fi機能を搭載
- 44.1k/48k/96kHz、16/24ビットのリニアPCM (WAV形式) 録音が可能
- BWFフォーマットに対応
- 32k ~ 320kbpsのMP3形式での録音が可能 (ID3 tag v2.4 対応)
- 異なるレベルで2系統の録音を同時に行うことができるデュアル録音
- デュアルフォーマット (WAV / MP3) 録音に対応
- 0.3Wモノラル出力のモニタースピーカーを内蔵
- 録音時または再生時に使用可能な内蔵エフェクター (リバープ) を搭載
- 音声の入力レベルを感知して、自動で録音の開始が行えるオートレック機能
- 録音を継続したまま、あらかじめ設定した時間や任意の位置でファイルを更新できるトラックインクリメント機能
- 録音開始2秒前からの音を録音できるプリレック機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、適度なレベルに自動的に入力レベル設定を下げるピークリダクション機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、その部分だけ適度なレベルに自動的に調節するリミッター機能
- 低域ノイズの低減に便利なローカットフィルター
- 音程を変えずに再生スピードを0.5倍から2.0倍まで (0.1倍単位) 可変できるVSA機能
- IN-OUTループ再生機能

本製品はアナログ・デバイス社製16/32ビット Blackfin®組み込みプロセッサを搭載し製品のデジタル信号処理と制御を行っています。
このBlackfin®プロセッサを搭載することにより製品の高性能化・省電力化を実現しています。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン／端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **ファイルブラウザ** のように表記します。
- ディスプレーに表示される反転表示部のことを「カーソル」と表記します。
- 「SD/SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を **《OK》** のように **《 》** で括って表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 本機とWi-Fiで接続するパソコンやスマートフォンなどを「Wi-Fi機器」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。



- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac は、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- AndroidおよびGoogle Playは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Blackfin® and the Blackfin logo are registered trademarks of Analog Devices, Inc.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。使用できるカードは、64MB～2GBのSDカード、4GB～32GBのSDHCカード、および48GB～128GBのSDXCカードです。

TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) までお問い合わせください。

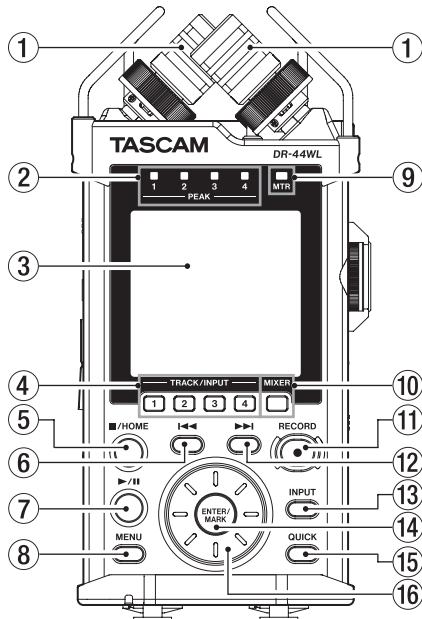
取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。SDカードの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

第2章 各部の名称と働き

トップパネル



① 内蔵ステレオマイク（内蔵マイクR / 内蔵マイクL）

エレクトレットコンデンサタイプのX-Y方式の単一指向性ステレオマイクです。

本機では、左奥側のマイクを **内蔵マイクR**、右手前側のマイクを **内蔵マイクL** と表示します。

② PEAKインジケーター

録音する音のレベルが歪む直前（-2dB）に点灯（赤）します。

③ ディスプレー

各種情報を表示します。

④ TRACK/INPUTボタン

録音待機中（4CHモード）または停止中（MTRモード）にこのボタンを押すと、録音するチャンネル（トラック）を選択します。**入力レベル** 設定画面をポップアップ表示中にこのボタンを押すと、入力レベルを調節するチャンネル（トラック）を選択します。**入力設定** 画面を表示中にこのボタンを押すと、設定するチャンネル（トラック）を表示します。

⑤ ■/HOMEボタン

再生中にこのボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。

一時停止中にこのボタンを押すと、ファイル先頭に戻ります。

録音待機中または録音中にこのボタンを押すと、録音を停止します。

各種設定画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。また、各種設定画面の操作では、確認のポップアップメッセージに対して「いいえ」を選択するときに使います。

⑥ ◀◀ボタン

再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこのボタンを押すと、再生ファイルの先頭に戻ります。

現在位置から再生ファイルの先頭の間にIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）が設定されているときには、IN点（始点）またはOUT点（終点）に移動します。

ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。

押し続けると早戻しサーチを行います。

ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、前のマークに移動します。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを左に移動します。

ファイルブラウザ 画面では、階層を戻ります。

⑦ ▶/||ボタン

ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。

再生中にこのボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。

ファイルブラウザ 画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。

⑧ MENUボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**メニュー** 画面が表示されます。

各種設定画面を表示中に、このボタンを押したときも、**メニュー** 画面に戻ります。

メニュー 画面表示中にこのボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

⑨ MTRインジケーター

動作モードがMTRモード時に点灯します。

⑩ MIXERボタン

このボタンを押すと、ミキサー画面を表示します。

ミキサー画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

⑪ RECORDボタン / RECORDインジケーター

4CHモード：

停止中に押すと録音待機状態になり、**RECORD**インジケーターが点滅します。

録音待機中に押すと録音が始まり、**RECORD**インジケーターが点灯します。

録音中に押すと録音一時停止になり、**RECORD**インジケーターが点滅します。

MTRモード：

停止中／再生中に押すと録音が始まり、**RECORD**インジケーターが点灯します。

録音中は、このボタンは機能しません。

⑫ ▶▶ボタン

停止中または再生中にこのボタンを押すと、次のファイルにスキップします。

現在位置から再生ファイルの先頭の間にIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）が設定されているときには、IN点（始点）またはOUT点（終点）に移動します。

押し続けると早送りサーチを行います。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを右に移動します。

ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、次のマークに移動します。

ファイルブラウザ 画面では、階層を進みます。ファイルが選択されているときは、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。

⑬ INPUTボタン

このボタンを押すと、**入力設定** 画面が表示されます。
入力設定 画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

⑭ ENTER/MARKボタン

各種設定画面の操作では、選択されている項目を決定する、または確認のポップアップメッセージに対して「はい」を選択するときに使います。

録音中にこのボタンを押すと、手動でマークを付けることができます。(→ 31ページ「マークの位置への移動」)

再生中にこのボタンを押しながら、◀◀ボタンを押すと前のマークに、▶▶ボタンを押すと次のマークへ移動します。(→ 31ページ「マークの位置への移動」)

再生機能 画面表示中に、希望の区間をループ再生させるときのIN点(始点)とOUT点(終点)を設定します。また、IN点(始点)とOUT点(終点)が設定されているときに、このボタンを押すと、IN点(始点)とOUT点(終点)がクリアされます。

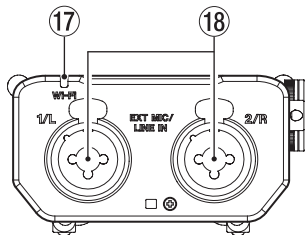
⑮ QUICKボタン

ホーム画面、**再生機能** 画面、**ファイルブラウザ** 画面および **ソング** 画面を表示中にこのボタンを押すと、クイックメニューをポップアップ表示します。(→ 45ページ「QUICKボタンの概要」)

⑯ ホイール

各種設定画面において、項目の選択や値の変更に使います。また、ファイルの再生位置の移動にも使います。

フロントパネル



⑰ Wi-Fiインジケータ

無線LAN機能の状態を示します。

消灯：オフ

点滅：接続待ち

点灯：専用アプリケーション (DR CONTROL) から操作可能状態

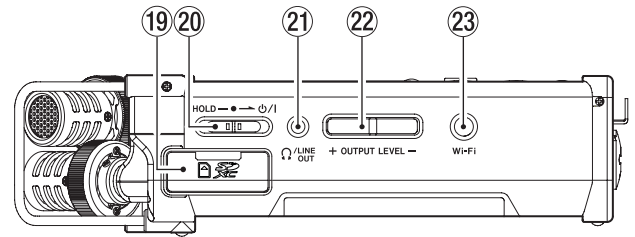
⑱ EXT MIC/LINE IN 1/L / 2/R端子 (XLR / TRS)

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

TRS (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

左サイドパネル



⑲ SDカードスロット

SDカードの挿入/取り出しをします。

⑳ HOLD / 電源スイッチ

「電源」方向にスライドし保持すると、電源のオン/オフの切り換えを行います。

「HOLD」方向にセットすると、ホールド機能が働きます。ホールド中は、全てのボタン操作を受け付けません。

㉑ Ω /LINE OUT端子

ヘッドホンまたはステレオミニジャックケーブルを使用して、外部機器のライン入力端子と接続します。

㉒ OUTPUT LEVELボタン

内蔵スピーカーまたは Ω /LINE OUT端子から出力される音量を大きくします。

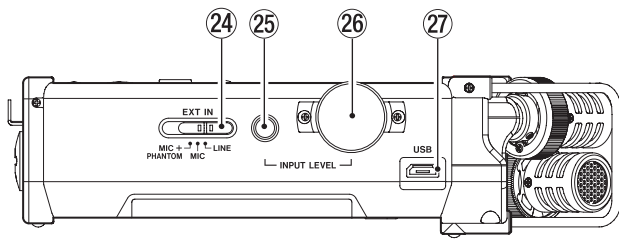
調節中は、ボリューム位置がディスプレイの下部にブルアップ表示されます。

㉓ Wi-Fiボタン

無線LAN機能のオン/オフを行います。

第2章 各部の名称と働き

右サイドパネル



24 EXT INスイッチ

EXT MIC/LINE IN端子のゲイン切り換えとファントム電源のオン/オフを選択します。

注意

- EXT MIC/LINE IN端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- ファントム電源スイッチをオンにした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源をオンにすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご利用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。
- USBバスパワーで使用する場合、使用されるパソコンによってはファントム電源が供給できない場合があります。その場合は、付属の専用ACアダプター (GPE053B) をご使用ください。
- コンデンサーマイクによっては、+24Vに設定されたファントム電源では動作しないものもあります。
- ファントム電源使用中は、USB端子に接続されている電源ケーブルの抜き差しを行わないでください。本体に電池を挿入している状態でも電源が切れる可能性があり、録音中のデータが破損または消失してしまうことがあります。

25 INPUT LEVELボタン

このボタンを押すと、ディスプレイに **入力レベル** 設定画面をブルダウン表示します。

入力レベル 設定画面表示中に押すと、ブルダウン表示を閉じます。

26 INPUT LEVELボリューム

入力レベル 設定画面表示中に、入力レベルを調節します。

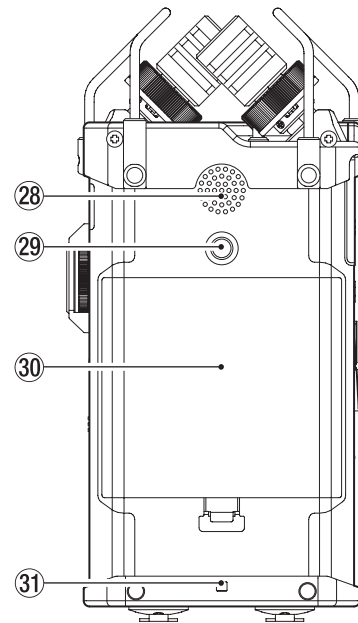
27 USB端子

付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。(→ 56ページ「第11章 パソコンと接続する」)
付属のUSBケーブルまたは付属の専用ACアダプター (GPE053B) で電源を供給することができます。

注意

パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

ボトムパネル



28 内蔵モノラルスピーカー

モニター用の内蔵スピーカーです。

以下の状態では、スピーカーから音は出力されません。

- 録音待機中
- ヘッドホン接続時
- 録音中
- スピーカー出力設定オフ時

29 三脚取り付け用穴 (1 / 4インチ)

本体に三脚を取り付けることができます。

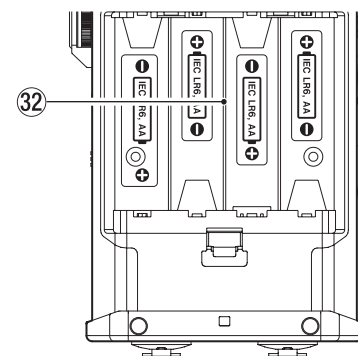
注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のネジを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚またはマイクスタンドを水平な場所に置いてください。
- 三脚によっては、ネジの規格の違いにより、直接取り付けられない場合があります。その場合は、市販の変換アダプターをご使用ください。

30 電池ケース蓋

31 ストラップホルダー

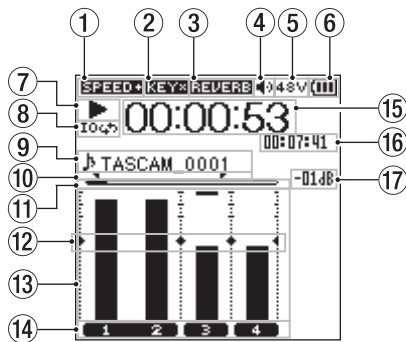
ストラップを取り付けます。



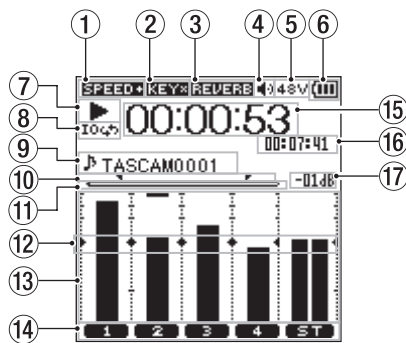
32 電池ケース

本機の電源になる電池 (単3形電池、4本) を収納するケースです。(→ 13ページ「単3形電池で使用する」)

ホーム画面



[4CHモード時のホーム画面]



[MTRモード時のホーム画面画面]

① 再生速度の状態表示

再生速度の設定に応じて、以下のアイコンを表示します。

アイコン	再生速度
表示なし	再生スピード変更なし
SPEED+	1.1 ~ 2.0倍
SPEED-	0.5 ~ 0.9倍
SPEED*	再生スピードの変更できないとき

② キーコントロール機能のオン/オフ状況表示

キーコントロール機能のオン/オフ状態をアイコン表示します。

アイコン	オン/オフ状態
表示なし	キーコントロール機能オフ
KEY	キーコントロール機能オン
KEY*	キーコントロール機能オン (設定無効状態)

③ リバーブのオン/オフ状況表示

リバーブのオン/オフ状態をアイコン表示します。

アイコン	オン/オフ状態
表示なし	リバーブオフ
REVERB	リバーブオン (掛け録り状態) : INT MIC, EXT IN
REVERB*	リバーブオン (SEND状態) : MIX

④ スピーカー出力表示

- 🔊 表示あり : スピーカー出力オン
- 🔊 表示なし : スピーカー出力オフ

⑤ ファントム電源表示

- 表示なし : ファントム電源供給なし
- 48V : ファントム電源48V供給状態
- 24V : ファントム電源24V供給状態

⑥ 電源供給の状態表示

電池供給時は、電池残量に応じて目盛りが表示されます (🔋、🔋、🔋)。

目盛り表示がなくなると 🔋 が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフ (スタンバイ状態) になります。

付属の専用ACアダプター (GPE053B) 使用時およびUSBバスパワー供給時は、🔌 を表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など消費電力の大きい動作を行おうとすると、「電池残量が少ないです」の警告のポップアップメッセージが出ることがあります。

⑦ レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
⏸	一時停止中
▶	再生中
▶▶	早送り中
◀◀	早戻し中
▶▶▶	次のファイルの先頭にスキップ
◀◀◀	現在または手前のファイルの先頭にスキップ

⑧ ループ再生の設定状態表示

ループ再生中は、🔁 アイコンを表示します。

⑨ ファイル名/ソング名表示

4CHモード時は、再生中のファイル名、またはタグ情報を表示します。

ID3タグ情報を持つMP3ファイルの場合は、ID3タグ情報が優先して表示されます。

4CHモード時の複数ファイルの場合は、ファイル名の形式部分と録音ファイルの基本番号のみを表示します。単独ファイルの場合はファイル名を表示します。

MTRモード時は、オープンされているソング名を表示します。

メモ

ID3タグ情報とは、MP3ファイルに保存可能なタイトルやアーティスト名の情報です。

⑩ ループ再生のIN点 (始点)、OUT点 (終点) の設定状況

ループ再生のIN点 (始点) / OUT点 (終点) の設定状況を表示します。

IN点 (始点) を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に 📍 アイコンが表示されます。

OUT点 (終点) を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に 📍 アイコンが表示されます。

⑪ 再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びて行きます。

⑫ レベルメーターガイド表示

入力/出力レベル調節の目安となるレベルメーターガイドです。目盛りの-12dBの位置に表示しています。

⑬ レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。

⑭ ファイル状態表示

再生されるファイルにより表記が変わります。

- 1 2 : ステレオファイル状態
- 1 2 : モノラルファイル x2 状態
- 1 2 : ファイルなし

第2章 各部の名称と働き

⑮ 経過時間表示

現在のファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑯ 残量時間表示

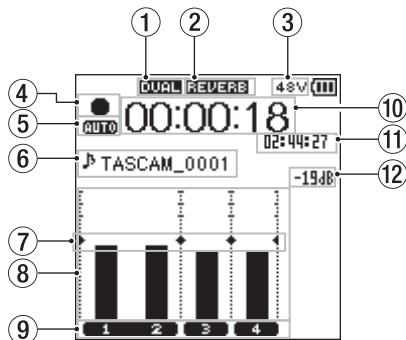
現在のファイルの残量時間（時：分：秒）を表示します。

⑰ ピーク値のデシベル（dB）表示

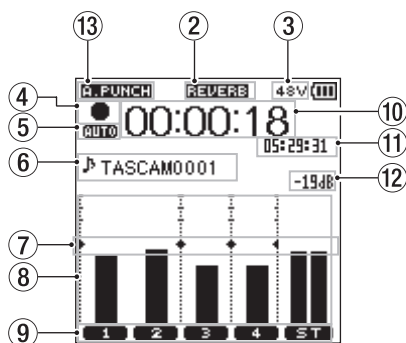
一定時間ごとに、その期間の再生レベルの最大値を、デシベル表示します。

録音画面

録音待機中または録音中は、以下の録音画面を表示します。



[4CHモード時の録音画面]



[MTRモード時の録音画面画面]

① デュアル録音機能のオン／オフ状況表示（4CHモードのみ）

表示なし : デュアル録音機能オフ
DUAL : デュアル録音機能オン

② リバーブのオン／オフ状況表示

リバーブのオン／オフ状態をアイコン表示します。

アイコン	オン／オフ状態
表示なし	リバーブオフ
REVERB	リバーブオン（掛け録り状態）：INT MIC, EXT IN
REVERB	リバーブオン（SEND状態）：MIX

③ ファントム電源表示

表示なし : ファントム電源供給なし
48V : ファントム電源48V供給状態
24V : ファントム電源24V供給状態

④ レコーダー動作状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
●	録音待機中または録音一時停止中
●	録音中
🕒	セルフタイマー録音待機中

⑤ プリレック機能またはオートレック機能の設定状態表示（4CHモードのみ）

プリレック機能が「入」の場合は、**PRE** アイコンが表示されます。オートレック機能が「入」の場合は、**AUTO** アイコンが表示されます。

⑥ ファイル名／ソング名表示

録音するファイルに自動的に付けられるファイル名を表示します。

4CHモード時の複数ファイルの場合は、ファイル名の形式部分と録音ファイルの基本番号のみを表示します。単独ファイルの場合はファイル名を表示します。

MTRモード時は、オープンされているソング名を表示します

⑦ レベルメーターガイド表示

入力／出力レベル調節の目安となるレベルメーターガイドです。目盛りの-12dBの位置に表示しています。

⑧ レベルメーター

入力音のレベルを表示します。

⑨ ファイル状態表示

録音されるファイルにより表記が変わります。

1 2 : ステレオファイル状態
1 2 : モノラルファイル x2 状態

⑩ 録音経過時間

録音ファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑪ 録音残時間

SDカードに録音可能な残時間（時：分：秒）を表示します。

⑫ ピーク値のデシベル（dB）表示

入力レベルのピーク値をデシベル表示します。

⑬ オートパンチイン／アウト機能のオン／オフ状況表示およびマスタートラックのロード状況表示（MTRモードのみ）

表示なし : オートパンチイン／アウト機能オフ
A.PUNCH : オートパンチイン／アウト機能オン
MASTER : マスタートラックがロードされているときに表示

メニューの構成

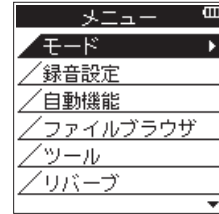
MENUボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
モード	本機の動作モードを切り換えます。	→ 19ページ
録音設定	録音の設定を行います。	→ 20ページ → 28ページ → 28ページ → 31ページ
自動機能	各種録音機能の設定を行います。	→ 27ページ → 27ページ → 30ページ
ファイルブラウザ (4CHモードのみ)	カード内のファイル、フォルダの操作をします。	→ 34ページ
ソング (MTRモードのみ)	カード内のソングの操作をします。	→ 40ページ
ツール	各種機能の設定を行います。	→ 17ページ → 52ページ → 53ページ → 58ページ
リバーブ	リバーブの設定を行います。	→ 54ページ
電源/画面設定	電源とディスプレイの設定を行います。	→ 67ページ
システム設定	各種設定を行います。	→ 64ページ → 65ページ

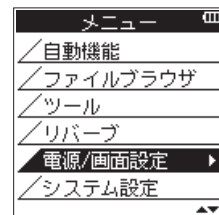
メニューを使う

ディスプレイのコントラストの設定を変更することを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。

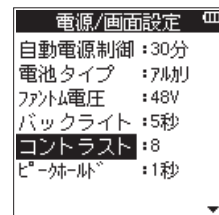


2. ホイールを使ってメニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押すと各種設定画面に移動します。



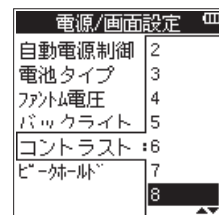
[電源/画面設定 選択時]

3. ホイールを使って、設定する項目を選択（反転表示）します。



[コントラスト 選択時]

4. ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押すと、設定内容にカーソルが移動します（反転表示）。



5. ホイールを使って、設定を変更します。
6. 同じメニュー内で別の項目を設定する場合は、ENTER/MARKボタンまたは◀◀ボタンを押します。
設定項目選択状態に戻りますので、ホイールを使って設定したい項目を選択（反転表示）します。
7. 必要に応じて、3.～6.を繰り返して、各項目を設定します。
8. MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

メニュー画面を呼び出します。

■/HOMEボタン

各設定画面を表示中に■/HOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

確認のポップアップメッセージに対して「いいえ」を選択するときにも使用します。

ENTER/MARKボタン

各設定項目の選択を確定する、または確認のポップアップメッセージに対して「はい」を選択するときを使用します。

▶▶ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動するときや、ファイルブラウザ画面でフォルダーを開くときに使用します。

◀◀ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動するときや、ファイルブラウザ画面でフォルダーを閉じるときに使用します。

ホイール

各項目を選択（反転表示）する、または値を変更するときを使用します。

MIXERボタン

ミキサー画面を呼び出します。

INPUTボタン

入力設定画面を呼び出します。

QUICKボタン

クイックメニューをポップアップ表示します。（→ 45ページ「QUICKボタンの概要」）

電源の準備

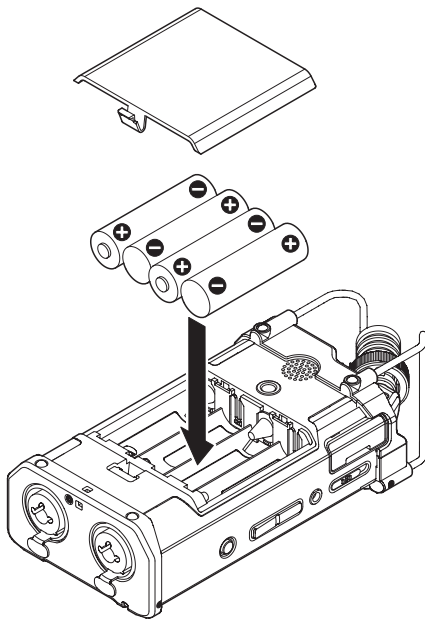
電源について

本機は、単3形電池4本、付属の専用ACアダプター（GPE053B）または付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給）、本機に電源を供給します。

電池は、単3形アルカリ乾電池または単3形ニッケル水素電池を使用することができます。

単3形電池で使用する

本機のボトムパネルにある電池ケース蓋を取り外し、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を4本セットして、電池ケース蓋を取り付けます。



単3形電池で使用する時、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（→67ページ「電池の種類の設定」）

注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。
- 付属のアルカリ乾電池は、動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。

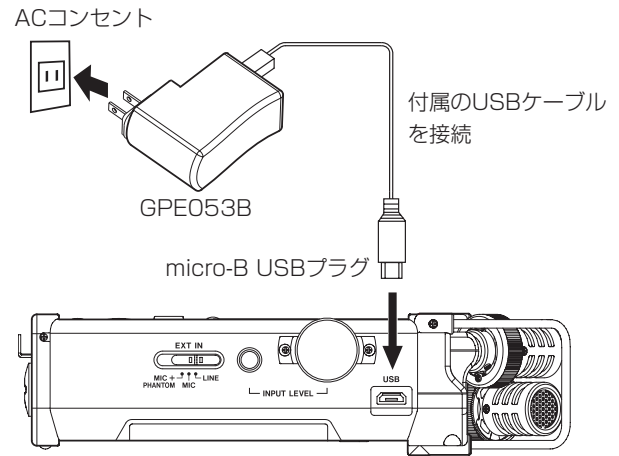
メモ

コンデンサーマイクヘファントム電源を供給した場合は、電力を多く消費します。単3形電池（ニッケル水素電池またはアルカリ乾電池）で供給しているときに、コンデンサーマイクを使用すると稼働時間が極端に短くなります。

長時間稼働させたい場合は、付属の専用ACアダプター（GPE053B）や別売の外付けバッテリーパック（TASCAM BP-6AA）を使って、本機に電源を供給してご使用ください。

ACアダプターで使用する

図のように、付属の専用ACアダプター（GPE053B）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。



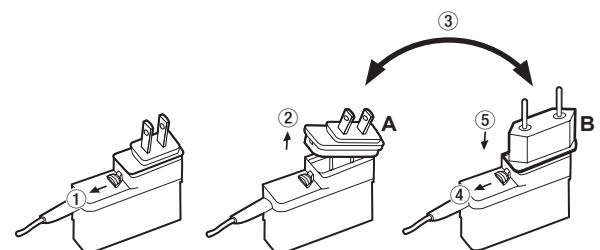
注意

- 必ず付属の専用ACアダプター（GPE053B）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

メモ

- 電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。
- 付属する専用ACアダプターには、2種類のコンセントプラグが同梱されています。ご使用になる電源コンセントの形状に合ったコンセントプラグに取り替えてご使用ください。

コンセントプラグの交換方法



- ① ACアダプターのノブを矢印方向に移動させます。
- ② コンセントプラグを引き抜きます。
- ③ 付属のAまたはBのコンセントプラグに交換します。
- ④ もう一度、ACアダプターのノブを矢印方向に移動させます。
- ⑤ ACアダプターにコンセントプラグを差し込みます。

交換完了後にコンセントプラグの浮きやガタつきがないか確認し、異常がなければ電源コンセントに接続してください。

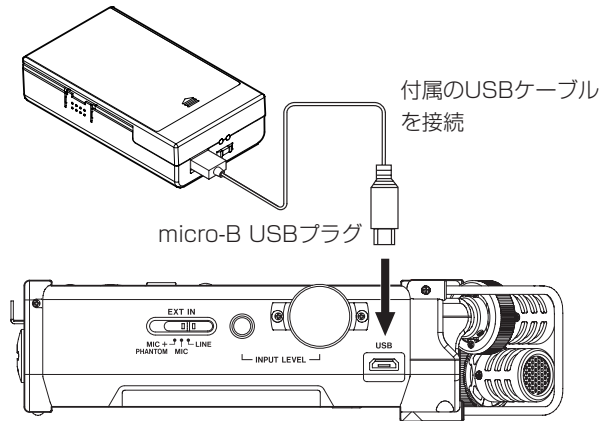
注意

交換後のコンセントプラグに異常がある場合は、使用を中止してください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。

外付けバッテリーパックで使用する (別売)

図のように、別売の専用外付けバッテリーパック (TASCAM BP-6AA) と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。詳しい使い方は、BP-6AAの取扱説明書をご覧ください。

TASCAM BP-6AA (別売)



注意

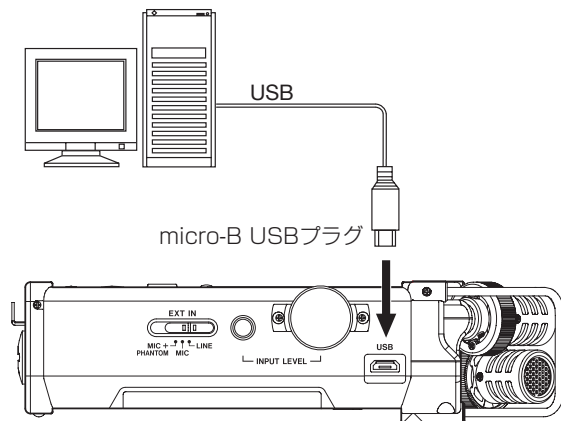
BP-6AAの電池残量は、本機からは検知できません。本機に電池を内蔵しないでBP-6AAだけで動作させていると、BP-6AAの電池残量がなくなったときに突然動作が停止する場合があります。

トラブルを防止するために、本機には残量が十分にある電池を内蔵してからBP-6AAを接続して使用するようになしてください。

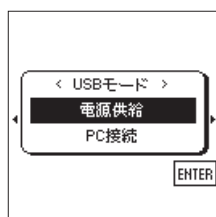
USBバスパワーで使用する

図のように、パソコンと本機を付属のUSBケーブルを使って接続します。

パソコン



電源がオンのときにUSB接続する、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで本機を動作させるか、またはパソコンとUSB接続するかを選択する **USBモード** 画面が表示されます。



ホイールを使って「電源供給」を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンを押すと電源がUSB端子から供給され、ホーム画面が表示されます。

メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます (USBバスパワー優先)。

注意

- パソコンのUSBバスパワーの仕様によっては、USBケーブルで接続しても本機が動作しないことがあります。その場合は、付属の専用ACアダプター (GPE053B) をご使用ください。
- 本機は、パソコン本体の省電力機能、スリープ機能などには対応していません。パソコンからのUSBバスパワーで本機を使用する場合は、必ずそれらの機能をオフにしてください。

電源をオンにする / オフ (スタンバイ状態) にする

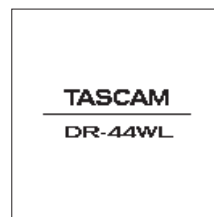
注意

- 付属の専用ACアダプター (GPE053B) 使用時、およびパソコンとのUSBバスパワー接続で供給しているときは、電源をオフにするとスタンバイ状態になります。
- 本機の電源のオン/オフは、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン/オフ (スタンバイ状態) 時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

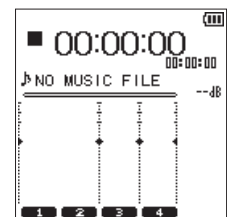
電源をオンにする

電源がオフ時に、左サイドパネルのHOLD/ ϕ /I スイッチを「 ϕ /I」方向にスライドし、TASCAM DR-44WL (起動画面) が表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



[起動画面]



[ホーム画面]

注意

初回電源投入時 (および電池がない状態でしばらく置いて内蔵時計がリセットされたとき) には、起動画面が表示される前に、日時を設定する **日時設定** 画面が表示されます。(→ 16ページ「日時を設定する」)

電源をオフ（スタンバイ状態）にする

電源オン時に、左サイドパネルのHOLD/ ϕ /I スイッチを「 ϕ /I」方向にスライドし、「TASCAM DR-44WL 電源をオフにしています」と表示されたら離します。

シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。



注意

電源をオフにするときは、必ずHOLD/ ϕ /I スイッチで行ってください。

電源がオンのときに電池を外したり、付属の専用ACアダプター（GPE053B）で使用している時に電源コードを抜いたり、USBバスパワーで使用している時にUSBケーブルを抜くと録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

レジューム機能

本機は、レジューム機能を搭載しており、電源をオンにしたときに、前回電源をオフにしたときの位置（時間）にロケートされます。

電源投入後、▶/■ ボタンを押すと、電源をオフにした時点のファイルの再生位置（時間）から再生することが可能です。

メモ

この内容は、SDカードに記録されているため、SDカードを入れ換える、またはフォーマットした場合にはレジュームできません。

言語を選択する

本機は、ディスプレイに表示される言語を切り換えることができます。お買い上げ後にはじめて電源をオンにしたとき、メニューやメッセージに使用する言語を設定する LANGUAGE 画面が表示されます。また、システム設定 画面の 言語 項目で再設定することができます。



1. ホイールを回してカーソルを移動し、言語を選択します。

選択肢

English	: 英語で表示
日本語	: 日本語で表示
Français	: フランス語で表示
Español	: スペイン語語で表示
Deutsch	: ドイツ語で表示
Italiano	: イタリア語で表示
Русский	: ロシア語で表示

2. 選択が完了したら、ENTER/MARK ボタンを押して確定します。

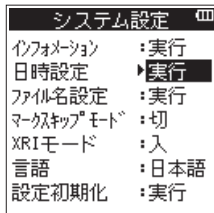
間違った言語を選択してしまった場合

HOLD/ ϕ /I スイッチで電源をオフにしたあと、MENU ボタンを押しながらHOLD/ ϕ /I スイッチで電源をオンしてください。言語選択メニューが表示され、言語の選択が可能となります。

日時を設定する

本機は、本体内の時計をもとに、録音したファイルに日時を記録します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **システム設定** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**システム設定**画面が表示されます。
3. ホイールを使って **日時設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**日時設定** 項目の「実行」が反転表示になります。



4. ENTER/MARKボタンを押して、**日時設定**画面を表示します。



5. ◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押してカーソル（反転表示部）を移動し、ホイールを使って値を変更します。
6. ENTER/MARKボタンを押すと確定し、**システム設定**画面に戻ります。

メモ

ここで設定した日付がファイル名に使用されます。（→ 65ページ「ファイル名の形式を設定する」）

注意

日時の設定は、電池のない状態または付属の専用ACアダプター（GPE053B）の接続がない状態、USBバスパワーで動作していない状態では、数分しか保持しません。

電池でお使いの場合は、完全に電池がなくなる前に電池交換することをお勧めします。

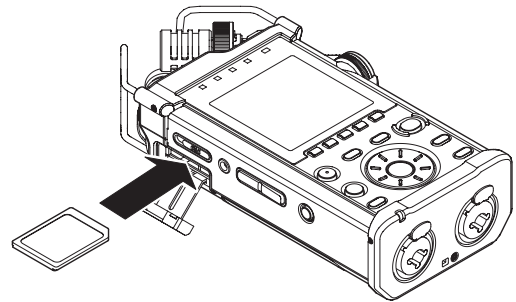
SDカードを挿入する／取り出す

挿入する

メモ

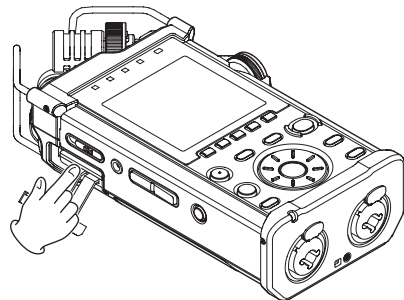
本機をお買い上げ時、SDカードスロットにSDカードが挿入されています。このSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めて挿入し直す必要はありません。

1. 左サイドパネルのSDカードスロットのカバーを開けます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



取り出す

1. SDカードスロットのカバーを開けます。
2. SDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。

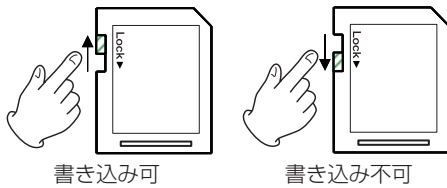


注意

- 録音、再生などカードアクセス中に、本機からSDカードを取り出さないでください。
- パソコンとUSB接続中に、本機からSDカードを取り外さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC/SDXC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト（<https://tascam.jp/jp/>）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。
- microSDカードをSDカードアダプターにてご使用の際には、かならずSDカードアダプターごとの取り出しをお願いいたします。microSDカードのみを取り出しますと誤動作の原因となります。

SDカードのライトプロテクトスイッチについて

SDカードには、プロテクト(書き込み防止)スイッチが付いています。

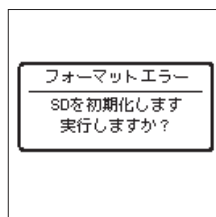


プロテクトスイッチを [LOCK] の方向へスライドすると、ファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、プロテクト(書き込み防止)スイッチを解除してください。

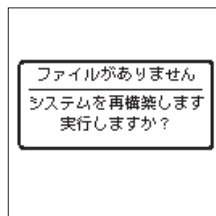
SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



[SD / SDHCカードの場合]



[SDXCカードの場合]

3. ENTER/MARK ボタンを押すと、フォーマットを開始します。

注意

フォーマットを行うと、SDカード上のデータは全て消去されます。

4. フォーマットが終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。

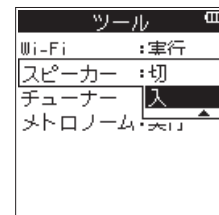
注意

フォーマットは、付属の専用ACアダプター (GPE053B) を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で供給しているときに行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

内蔵スピーカーの出力をオン／オフするには

工場出荷時、本機の内蔵スピーカーの出力設定はオンに設定されています。内蔵スピーカーの出力をオフにするには、ツール画面内のスピーカー設定項目をオフにしてください。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール メニュー項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ツール画面が表示されます。
3. ホイールを使ってスピーカー項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使ってオン／オフを設定し、ENTER/MARKボタンを押します。
選択肢: 切、入 (初期値)
5. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

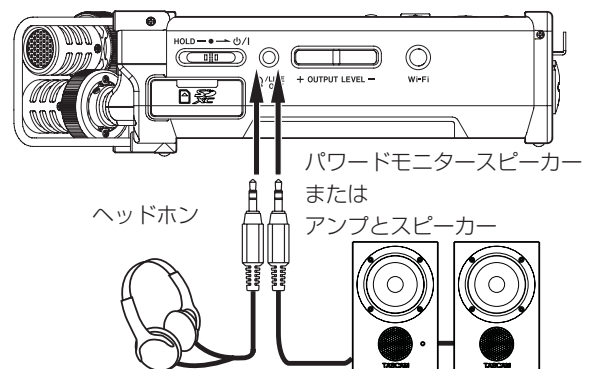
メモ

録音待機中または録音中のとき、またはヘッドホン/モニターシステムを接続すると、スピーカー設定が「入」に設定されていても、内蔵スピーカーから音は出力されません。

モニター用機器を接続する

ヘッドホンで聴く場合は、Ω /LINE OUT端子にヘッドホンを接続してください。

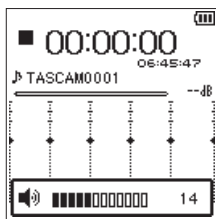
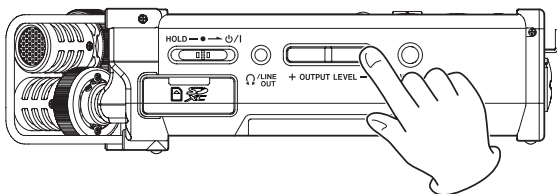
外部モニターシステム (パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー) で聴く場合は、Ω /LINE OUT端子に外部モニターシステムを接続してください。



再生の音量を調節する

内蔵スピーカーまたは、 Ω /LINE OUT端子から出力される音量を、左サイドパネルのOUTPUT LEVEL (+/-) ボタンを使って調節します。

このとき、ボリューム位置がディスプレイの下部にプルアップ表示されます。



また、音量を上げていくとポップアップメッセージ「大音量による聴覚障害のリスクが増大します」を表示することがあります。



これは、聴覚障害を防止するためにEU（欧州連合）が推奨するレベルを超える音量に設定しているときに、警告を表示するものです（EU（欧州連合）の音圧規制）。

ヘッドホンを接続し直すと、音量が初期設定にリセットされます。

メモ

- ポップアップメッセージが出て、引き続き音量の調整はできません。音量を上げるか、下げるとポップアップメッセージが消え、同時に音量調節もできます。
- Ω /LINE OUT端子にヘッドホンなどを接続した状態で、出力レベルを 12 以上で電源を再起動した場合、起動後の出力レベルは 12になります。

注意

大音量で音を聴いていると聴覚を損なう恐れがあります。また、周囲の騒音によっても、再生音が実際の音量よりも小さく感じられる場合があります。ヘッドホンなどを耳に装着する際には、先にオーディオを再生して音量を確認するようにしてください。

入力の設定をする

内蔵ステレオマイクで録音する

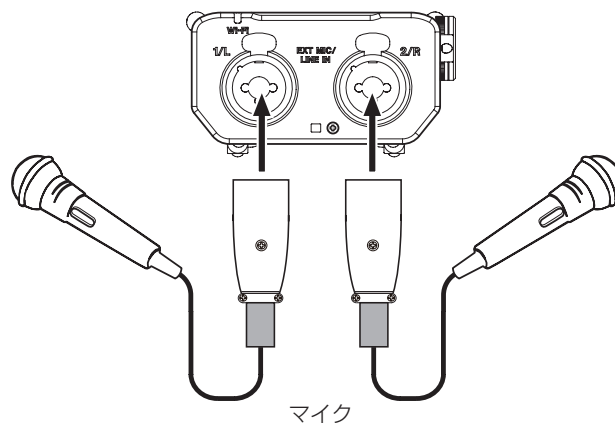
内蔵ステレオマイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

メモ

MONO録音時は、録音するチャンネルに設定したマイクを音源の方向に向けてください。

外部マイクで録音する（EXT MIC IN）

外部マイクを本機のEXT MIC/LINE IN端子に接続します。外部マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

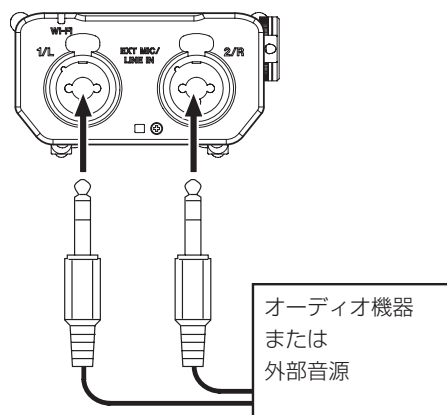


メモ

コンデンサーマイクへファントム電源を供給する場合は、EXT INスイッチを「MIC+PHANTOM」に切り換えます。（→ 22ページ「入力ゲインを設定する」）

外部機器から録音する（LINE IN）

ステレオプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器の出力と接続します。



注意

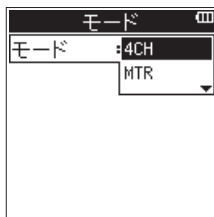
- 本機の入力レベルを調節しても、入力された音が歪んでいる場合は、外部機器の再生音量を小さくしてください。
- 外部機器の出力レベルを調節できないライン出力を接続した場合は、音量が大きい音源などではレベルオーバーとなり、調節できない場合があります。その場合には、レベル調節可能なヘッドホン端子などを接続してください。

動作モードの選択

本機には、4CHモードとMTRモードの2種類の動作モードがあります。(→ 20ページ「録音モードについて」)

モードを設定する

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使ってモードメニュー項目を選択(反転表示)し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。モード画面が表示されます。
3. ホイールを使ってモード項目を選択(反転表示)し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、動作モードを選択します。
選択肢：4CH(初期値)、MTR
5. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

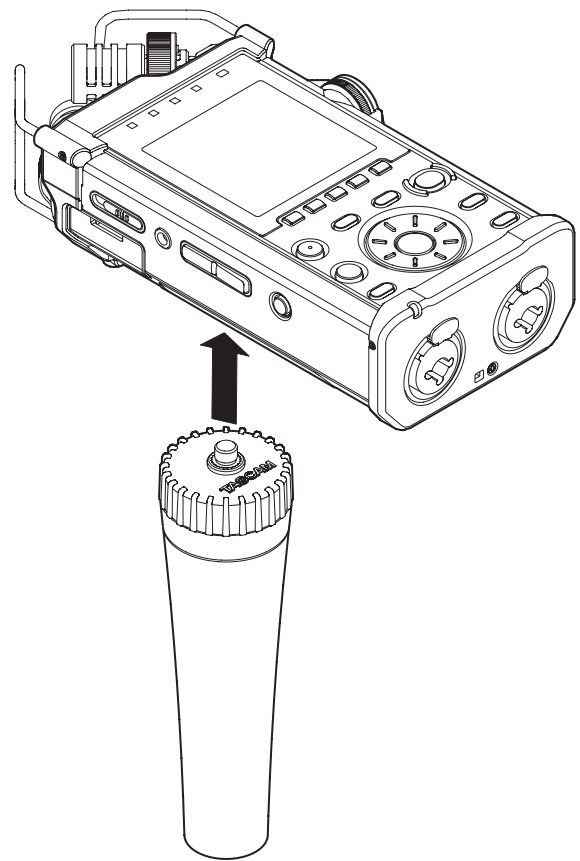
メモ

選択されたモードは記憶され、次回電源投入時にも選択されたモードで起動します。

モードの確認

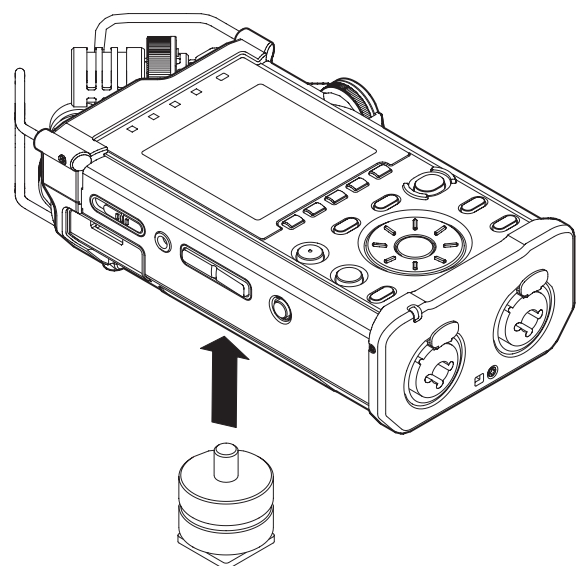
動作モードをMTRに設定したとき、ディスプレイ上部のMTRインジケータが点灯します。

グリップを取り付ける



付属のグリップをボトムパネルの三脚取り付け用穴(1 / 4インチ)に取り付けてると、手持ち用のハンドグリップとして使うことができます。また、マイクスタンドに取り付けも可能になります。

シューマウントアダプターを取り付ける



デジタル一眼レフカメラやビデオカメラなど、カメラ用の音声レコーダーとして使うには、付属のシューマウントアダプターをボトムパネルの三脚取り付け用穴(1 / 4インチ)に取り付けて使用します。

第4章 録音

本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。

録音オーディオファイル形式は、MP3（32k～320kbps、44.1k/48kHz）、WAV / BWF（44.1k/48k/96kHz、16/24ビット）から設定可能です。

BWF（Broadcast Wave Format）に対応したWAVファイルは、録音中に付けたマークをBWF対応のソフトなどで使用することができます。

録音モードについて

本機は、4CHモードとMTRモードの2種類のモードで録音ができます。

4CHモード

内蔵マイクと外部入力端子から最大4チャンネルの同時録音が可能です（入力端子のアサインは固定）。

録音ファイルは、録音するチャンネルのリンクの設定により以下となります。

- モノ x1～4
- ステレオ x1～2
- ステレオ x1 + モノ x1～2（WAV、BWFのみ）

MTRモード

トラックへ個別に録音を行う「多重録音」ができるMTR（Multi Track Recorder）として使うことができます。

内蔵マイクと外部入力端子から最大4トラックの同時録音（入力端子のアサインは選択可）にくわえ、すでに録音されたファイルに対して重ねて録音することが可能です。

録音ファイルは、以下となります。

- モノ x4

ファイルの保存先を設定する

録音したファイルの保存するフォルダーを設定します。

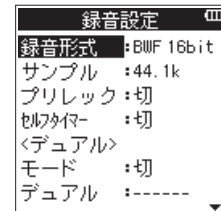
録音したファイルは、カレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）に録音されます。詳細は、36ページ「フォルダー操作」のクイックメニュー項目（**フォルダー選択**）を参照してください。4CHモード時に特に指定しない場合は、**《MUSIC》** フォルダーの下にファイルが作成されます。

MTRモード時は、**《MTR》** フォルダーの下にファイルが作成されます。

ファイル形式 / サンプル周波数を設定する（4CHモードのみ）

録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を設定します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **録音設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**録音設定** 画面が表示されます。



3. ホイールを使って **録音形式** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ここでファイル形式を設定します。



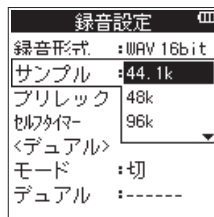
ホイールを使って、以下の中から設定します。

選択肢：BWF 24bit、BWF 16bit、WAV 24bit、WAV 16bit（初期値）、MP3 320k、MP3 256k、MP3 192k、MP3 128k、MP3 96k、MP3 64k、MP3 32k

メモ

- BWF（Broadcast Wave Format）は放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。ファイルの拡張子は「.wav」で、WAVファイルの拡張子と同じです。本書では、BWFに対応したWAVファイルを「BWF」、BWFに対応していないWAVを「WAV」と表記します。
 - WAV / BWFの方がMP3よりも高音質で録音ができます。
 - MP3の方がWAV / BWFよりも長時間録音ができます。
 - MP3の場合は、値が大きいほど高音質で録音ができます。
4. ENTER/MARKボタンまたは◀◀ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。

- ホイールを使って サンプル 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ここでサンプリング周波数を設定します。



ホイールを使って、以下の中から設定します。

選択肢：44.1k（初期値）、48k、96k

メモ

ファイル形式がMP3のときは、96k は選択できません。

ヒント

WAV 16bit、44.1kHzを選ぶとCDと同等の音質で録音することができます。

- ENTER/MARKボタンまたは◀◀ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

入力レベルを調節する

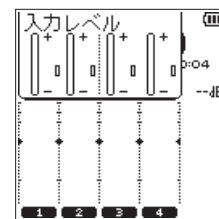
録音した音もしくは信号が入力が大きすぎて歪む、または小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前に入力レベルを調節する必要があります。

手で調節する機能の他にピークリダクション、リミッターの2つのレベルコントロール機能もありますので、お好みに応じてお使いください。（→ 25ページ「レベルコントロール機能を使う」）

ヒント

入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

- ホーム画面表示中に右サイドパネルのINPUT LEVELボタンを押して、入力レベル 設定画面をポップアップ表示させます。全てのTRACK/INPUTボタンが点滅します。

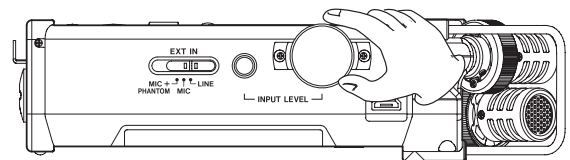


- トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、入力レベルを調節するチャンネル（トラック）を選択します。選択したTRACK/INPUTボタンが点灯します。

メモ

入力レベルを調節するチャンネル（トラック）を複数選択（チャンネル 1/2またはチャンネル 3/4）した場合は、選択したチャンネル（トラック）を同時に調節することができます。

- 右サイドパネルのINPUT LEVELボリュームを使って、入力レベルを調節します。



入力音が大きすぎる場合は、トップパネルのPEAKインジケーターが赤く点灯します。

レベルメーターには、-12dBの位置に▶◀の目印が付いています。

この目印を中心にレベルが変化し、かつPEAKインジケーターが赤く点灯しないように入力レベルを設定してください。

- 右サイドパネルのINPUT LEVELボタンまたはトップパネルの■/HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

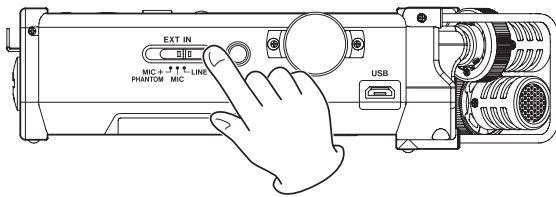
録音待機中や録音中は、スピーカー 項目の設定が「入」の場合でもスピーカーから音は出ません。

モニター音を聴きながら入力レベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンの本機のΩ/LINE OUT端子に接続してください。

モニター音は、ホーム画面表示中に左サイドパネルのOUTPUT LEVELボタンで調節できます。モニター音量を変えても録音される音には、影響ありません。

入力ゲインを設定する

入力ソースとして外部入力選ばれているとき、接続されている外部機器に合わせて右サイドパネルのEXT INスイッチを選択します。



MIC+PHANTOM :

ファントム電源 (+24V / +48V) を必要とするコンデンサーマイクを本機に接続した場合は、「MIC+PHANTOM」に設定します。(→ 22ページ「ファントム電源について」)

MIC :

マイクを本機に接続した場合は、「MIC」に設定します。

LINE :

外部機器のライン出力端子を本機器のアナログ入力に接続した場合は、「LINE」に設定します。

注意

この設定に合わせて入力レベルの設定範囲が切り換わります。そのため切り換えたときに入力レベルが大きく変化する場合がありますので、電源がオフの状態または出力レベルを絞った状態で切り換えてください。

ファントム電源について

停止中に、右サイドパネルのEXT INスイッチを「MIC+PHANTOM」にすると、ファントム電源をオンにする確認のポップアップメッセージが表示されます。



確認のポップアップメッセージを表示中にENTER/MARKボタンを押すとファントム電源がオンになり、EXT MIC/LINE IN端子のファントム電源 (+24V / +48V) がオンになりマイクに供給されます。

確認のポップアップメッセージを表示中にEXT INスイッチを「MIC」か「LINE」に切り換えると、確認のポップアップメッセージが消え、ファントム電源はオフになります。

+24V / +48Vの電圧設定は、電源/画面設定 画面で行います。(→ 67ページ「ファントム電源の電圧値の設定」)

メモ

+48V に設定した場合、+24V よりも電池の消費が早くなります。

注意

- EXT MIC/LINE IN端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- ファントム電源スイッチをオンにした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源をオンにすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご利用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。
- USBバスパワーで使用する場合、使用されるパソコンによってはファントム電源が供給できない場合があります。その場合は、付属の専用ACアダプター (GPE053B) をご使用ください。
- コンデンサーマイクによっては、+24Vに設定されたファントム電源では動作しないものもあります。
- ファントム電源使用中は、USB端子に接続されている電源ケーブルの抜き差しを行わないでください。本体に電池を挿入している状態でも電源が切れる可能性があり、録音中のデータが破損または消失してしまうことがあります。

入力設定画面の設定

INPUTボタンを押して表示される **入力設定** 画面は、4CHモード時とMTRモード時で表示内容が異なります。



[4CHモード時の入力設定画面トラック1表示]



[MTRモード時の入力設定画面トラック1表示]

メモ

チャンネル（トラック）のリンクをオンにすると、**入力設定** 画面下部の表示がリンクの表示に変わります。



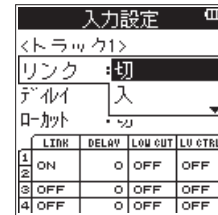
[4CHモード時の入力設定画面トラック1表示]

チャンネルのリンクを設定する（4CHモードのみ）

チャンネル 1とチャンネル 2またはチャンネル 3とチャンネル 4は、リンクが可能です。

リンクされたチャンネル（トラック）同士の **入力設定** 画面における設定は共通になります。

1. INPUTボタンを押して、**入力設定** 画面を表示します。
2. トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、リンクを設定するチャンネル（トラック）の **入力設定** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **リンク** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



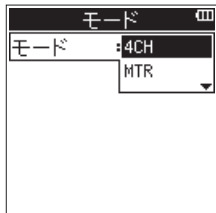
4. ホイールを使って、チャンネル（トラック）のリンクを設定します。
選択肢：切（初期値）、入
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

リンク の項目は、録音待機中でも設定／変更することができます。

トラックの入力を設定する (MTRモードのみ)

- MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
- ホイールを使ってモード項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。モード画面が表示されます。
- ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



- ホイールを使って動作モードをMTRモードに設定し、ENTER/MARKボタンを押します。
選択肢: 4CH (4CHモード、初期値)、MTR (MTRモード)
- INPUTボタンを押して、入力設定画面を表示します。
- トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、トラックの入力を設定するトラックの入力設定画面を表示します。
- ホイールを使って入力項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



[MTRモード時の入力設定画面トラック1表示]

- ホイールを使って、トラックの入力を設定します。
選択肢: 切、内蔵マイク (トラック1初期値)、内蔵マイクR、EXT IN 1、EXT IN 2

選択肢	入力先
切	入力設定なし
内蔵マイク (トラック1初期値)	内蔵ステレオマイクの右手前側から入力
内蔵マイクR	内蔵ステレオマイクの左奥側から入力
EXT IN 1	EXT MIC/LINE IN端子の1/L端子から入力
EXT IN 2	EXT MIC/LINE IN端子の2/R端子から入力

- ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

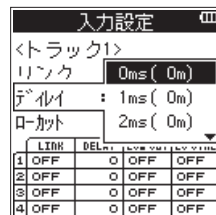
メモ

- 入力の項目は、録音中できません。
- 同じ入力の選択肢を複数のトラックで共有することはできません。入力の選択肢が重複した場合は、元のトラックを「切」に変更します。

ディレイ項目の設定

内蔵マイクと外部マイクの距離が離れている場合に生じる時間差を補正します。

- INPUTボタンを押して、入力設定画面を表示します。
- トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、ディレイ項目を設定するチャンネル (トラック) の入力設定画面を表示します。
- ホイールを使ってディレイ項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



[4CHモード時の入力設定画面トラック1表示]

- ホイールを使って、接続したマイクの距離に応じた値を設定します。
選択肢: 0ms (0m) (初期値) ~ 300ms (103m)
- ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使用すると、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

1. INPUTボタンを押して、**入力設定** 画面を表示します。
2. トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、ローカットフィルターを設定するチャンネル（トラック）の **入力設定** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **ローカット** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



[4CHモード時の入力設定画面トラック1表示]

4. ホイールを使って、ローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。
選択肢：切（初期値）、40Hz、80Hz、120Hz、220Hz
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

ローカット の項目は、録音待機中でも設定/変更することができます。

レベルコントロール機能を使う

マイク入力時の入力レベルコントロール機能を設定します。

1. INPUTボタンを押して、**入力設定** 画面を表示させます。
2. トップパネルのTRACK/INPUTボタンを押して、レベルコントロール機能を設定するチャンネル（トラック）の **入力設定** 画面を表示します。
3. ホイールを使って **レベル制御** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



[4CHモード時の入力設定画面]

4. ホイールを使って、使用するレベルコントロール機能を設定します。
選択肢：切（初期値）、リミッター、ピーク
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

レベル制御 の項目は、録音待機中でも設定/変更することができます。

ピーク

入力音が大きすぎたときに、入力レベルを適度なレベルまで自動で下げる機能です。これにより難しい入力レベルの設定を簡単にすることができます。入力レベルを上げたいときは、手動で行うことができます。

ヒント

たとえば、バンド演奏を録音するとき、実際に録音する前にピークリダクションのリハーサルを行うことができます。

録音待機状態でピークリダクションモードを選択し、入力レベルを最大にします。ここでリハーサル演奏を行うと、入力音に応じて適度なレベルまで入力レベルが下げられ、演奏に合わせた入力レベルが設定されます。

録音を開始する前にオフすれば設定された入力レベルで録音することができます。また、そのまま録音を行えば録音中も入力音に応じて入力レベルを自動調節できます。

リミッター

突発的な過大入力による歪みを防ぐ機能です。

音量変化が激しいライブ録音などに適しています。

このモードでは、録音中でも手動で入力レベルを変更することができます。

注意

入力音が大きすぎるとリミッターをオンにしても歪んでしまう場合があります。そのときは、手動で入力レベルを下げるか、音源から本体を離してください。

4CHモードで録音する（4CHモードのみ）

内蔵マイクと外部マイクまたは外部機器を接続して、独立した4チャンネルの録音を行うことができます。

モノ x1 ~ 4

チャンネル 1、チャンネル 2、チャンネル 3、チャンネル 4

ステレオ x1 ~ 2

チャンネル 1/2、チャンネル 3/4

ステレオ x1 + モノ x1 ~ 2 (WAV、BWFのみ)

チャンネル 1/2 + チャンネル 3、チャンネル 4

チャンネル 1、チャンネル 2 + チャンネル 3/4

4チャンネル録音する

1. 動作モードを **4CH** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. **RECORD** ボタンを押して、録音待機状態にします。
3. 録音したいチャンネル（トラック）を **TRACK/INPUT** ボタンで選択します。
このとき、ステレオファイルで録音したいチャンネル（トラック）は、ステレオリンクをオンにしてください。ステレオリンクされていないチャンネル（トラック）は、モノファイルで録音されます。
4. 再度 **RECORD** ボタンを押すと、録音が始まります。
5. 録音を停止させる場合は、**■/HOME** ボタンを押してください。

ステレオリンクの方法

- **チャンネル 1とチャンネル 2のステレオリンクをオン/オフする**
録音待機状態中に、**TRACK/INPUT** ボタンの **1** ボタンと **2** ボタンを同時に押します。
- **チャンネル 3とチャンネル 4のステレオリンクをオン/オフする**
録音待機状態中に、**TRACK/INPUT** ボタンの **3** ボタンと **4** ボタンを同時に押します。

ディスプレイ内のチャンネル（トラック）状態表示でステレオリンクの状態がわかります。

上記の組み合わせ以外のステレオリンクはできません。

メモ

録音設定 画面の **録音形式** 項目が **MP3** の場合には、モノファイルとステレオファイルの組み合わせでは録音できません。

4チャンネル録音時のファイル名

4チャンネル録音では、以下のファイルが作成されます。ステレオリンクがされた場合は、内蔵マイク（チャンネル 1/2）または外部機器（チャンネル 3/4）のファイルがセットで作成されます。

TASCAM_0001S12.WAV

① ② ③ ④

- ①：ファイル名設定 画面の **ワード** 項目の設定による
- ②：録音ファイルの基本番号
- ③：5 → ソースファイル
- ④：アサインチャンネル
(1 → チャンネル 1、12 → チャンネル 1/2、34 → チャンネル 3/4)

MTRモードで録音する（MTRモードのみ）

トラックへ個別に録音を行う「多重録音」ができる **MTR** (Multi Track Recorder) として使うことができます。

内蔵マイクと外部入力端子から最大4トラックの同時録音（入力端子のアサインは選択可）にくわえ、すでに録音されたファイルに対して重ねて録音することが可能です。

録音ファイルは、モノ x4で保存されます。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. 録音したいトラックを **TRACK/INPUT** ボタンで選択します。
ここで選択されたトラックは、録音待機状態になります。
3. **RECORD** ボタンを押すと、録音が始まります。
4. 録音を停止させる場合は、**■/HOME** ボタンを押してください。

メモ

MTR モードでは、パンチイン/アウトやトラックバウンスをすることができます。(→ 32ページ「パンチイン/アウト (MTRモードのみ)」)、(→ 49ページ「トラックバウンス (MTRモードのみ)」)

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける（トラックインクリメント、4CHモードのみ）

録音中に手動で、または設定した時間になったときに自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続することができます（トラックインクリメント機能）。

録音中に手動でトラックインクリメントする（マニュアルトラックインクリメント）

録音中に、いつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に、**▶▶** ボタンを押します。

メモ

新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。

注意

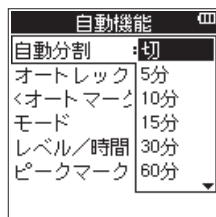
- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。また、サンプリング周波数が96kHzの場合は、4秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成するファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

設定した時間で自動的にトラックインクリメントする (オートトラックインクリメント)

録音中に、**自動機能** 画面の **自動分割** 項目で設定した時間に達すると、自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続します。

以下の手順で、自動的にトラックインクリメントする最大時間の設定を行います。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
自動機能画面が表示されます。
3. ホイールを使って **自動分割** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、自動でトラックインクリメントしたい時間を設定します。
選択肢：切（初期値）、5分、10分、15分、30分、60分
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

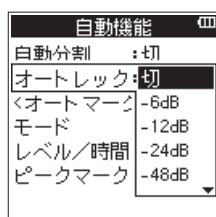
注意

フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。

録音を自動で開始する (オートレック、4CHモードのみ)

オートレック機能をオンにすると、入力音のレベルに応じて録音の開始や一時停止、またはファイルの更新を自動で行うことができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
自動機能画面が表示されます。
3. ホイールを使って **オートレック** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、オートレック機能の働くスタートレベル（信号が入力されると判断する基準レベル）を設定します。
選択肢：切（初期値）、-6dB、-12dB、-24dB、-48dB
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。
7. RECORDボタンを押して、録音チャンネル（トラック）選択状態にします。
8. 録音したいチャンネル（トラック）をTRACK/INPUTボタンで選択します。
このとき、ステレオファイルで録音したいチャンネル（トラック）は、ステレオリンクをオンにしてください。ステレオリンクされていないチャンネル（トラック）は、モノファイルで録音されます。
9. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
入力音が **オートレック** 項目で設定した基準レベルを上回ると自動で録音を開始します。

メモ

- 録音待機中は、RECORDインジケーターが通常録音時より速く点滅します。
 - 録音中に入力音が **オートレック** 項目で設定した基準レベルを5秒以上にわたって下回ると録音待機状態になり、新しいファイルが作成されます。その後入力音が基準レベルを上回ると録音を再開します。
 - 新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。
10. 録音を停止させる場合は、■/HOMEボタンを押してください。

注意

- オートレック機能がオンのときには、セルフタイマーは使用できません。
- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。また、サンプリング周波数が96kHzの場合は、4秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成させるファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

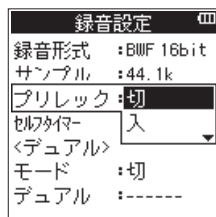
ヒント

プリレック機能と組み合わせることにより、音の出だし部分を欠かすことなく録音できます。

録音開始の少し前から録音する (プリレック、4CHモードのみ)

録音待機中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音することができます（プリレック機能）。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **録音設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**録音設定**画面が表示されます。
3. ホイールを使って **プリレック** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、プリレック機能のオン/オフを設定します。
選択肢: 切（初期値）、入
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

ヒント

オートレック機能と組み合わせることにより、出音の部分を欠かすことなく録音できます。

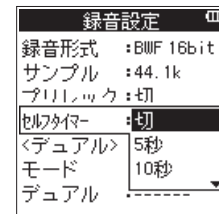
メモ

録音待機状態になってから2秒以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。

セルフタイマー機能

カメラのセルフタイマーのように、設定時間経過後に録音を開始するように設定ができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **録音設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**録音設定**画面が表示されます。
3. ホイールを使って **セルフタイマー** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、録音を開始するまでの時間を設定します。
選択肢: 切（初期値）、5秒、10秒
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。
7. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
レコーダーの動作状態表示部が、セルフタイマーアイコン（🕒）に変わり、その右に時間が表示されます。
8. RECORDボタンを押します。
設定時間経過後、録音が開始されます。

メモ

- 録音中に一時停止したときには、セルフタイマー機能は使用できません。
- セルフタイマー機能とオートレック機能は、同時使用はできません。
- MTRモード時、自動機能画面のオートパンチ項目が「入」の場合は、オートパンチ機能が優先されます。

異なる入力レベル／フォーマットで同時に2系統の録音をする（デュアルREC、4CHモードのみ）

本機では、通常の録音とは別に、異なる入力レベルでもう1つの録音を同時に行うことができます。たとえば、マイク録音を行う際に、片方はできるだけ入力レベルを上げた状態で通常の録音をし、安全のために入力レベルを少し低めに設定したもう1つの録音を同時にするということができます。

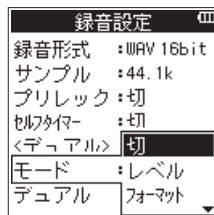
録音ファイルは、2個（通常録音における入力レベルのファイルとそのレベルから-12dB下げた入力レベルのファイル）で保存されます。また、異なる2つのフォーマット（WAVとMP3）で1つの録音を同時に行い、2個のファイルを作成することもできます。

メモ

- 通常の録音における入力レベル設定は、従来の方法で行ってください。（→ 21ページ「入力レベルを調節する」）、（→ 22ページ「入力ゲインを設定する」）
- 異なる入力レベル／フォーマットで録音するもう1つのファイルにエフェクトを掛けることはできません。

デュアル録音の設定をする

- MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
- ホイールを使って **録音設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
録音設定画面が表示されます。
- ホイールを使って **モード** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



- ホイールを使って、デュアル録音時の録音モードを設定します。

選択肢	内容
切（初期値）	通常モードでの録音を行います。
レベル	異なる2つのレベルで録音を行います。
フォーマット	異なる2つのフォーマット（WAVとMP3）で録音を行います。

- ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 録音モードを **フォーマット** 項目を選択した場合は次の手順に進みます。 **フォーマット** 項目以外を選択した場合は■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。
- ホイールを使って **デュアル** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



- ホイールを使って、デュアル録音するMP3のフォーマットを設定します。

選択肢：MP3 320k、MP3 256k、MP3 192k、MP3 128k、MP3 96k、MP3 64k、MP3 32k

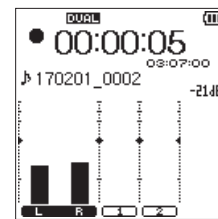
- ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- WAVファイルのフォーマットは、通常録音における設定になります。
- デュアル録音は、録音フォーマットがWAV / BWFの44.1k 16ビット / 48kHz 16ビットの場合のみ選択することができます。
- デュアル録音では、STEREOファイル時は2トラック、MONOファイル時は1トラックの録音が可能です。デュアル録音のソースに複数チャンネル（トラック）を選択することはできません。

デュアル録音を開始する

- RECORDボタンを押して録音待機状態にし、録音したいチャンネル（トラック）をTRACK/INPUTボタンで選択します。
- RECORDボタンを押すと、デュアル録音が始まります。デュアル録音時は、以下のような録音画面表示になります。



録音画面の入カソース表示部に現在の入力ソースと、デュアル録音するもう1つのファイルの入カレベルを表示します。

デュアル録音時のファイル名

デュアル録音を行うと、2つのファイルが同時に作成されます。デュアル録音されたもう1つのファイルのファイル名は、通常録音されたファイルのファイル名に「_D」が追加された名前になります。

TASCAM_0002S12.WAV

① ② ③ ④

TASCAM_0002S12_D.WAV

① ② ③ ④ ⑤

- ①：ファイル名設定画面のワード項目の設定による
- ②：録音ファイルの基本番号
- ③：S → ソースファイル
- ④：アサインチャンネル
（12 → チャンネル 1/2、34 → チャンネル 3/4）
- ⑤：D → デュアル録音ファイル

録音中にマークを付ける

録音中または録音待機中にファイルの任意の位置にマークを付け、ファイル再生時には素早くその位置に移動して再生することができます。(→ 31ページ「マークの位置への移動」)

マニュアルでは任意の位置にセットできますが、操作音が気になるときなどはレベル (LEVEL) や時間 (TIME) で自動的にセットすることもできます。

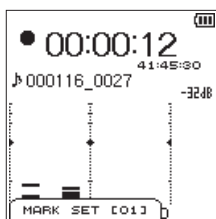
メモ

録音中または録音待機中は、マークの位置への移動はできません。

録音中に手動でマークを付ける

録音中または録音待機中にENTER/MARKボタンを押すとその位置にマークを付けることができます。

登録したマーク番号がディスプレイの下部にプルアップ表示されます。



メモ

- マークは、ファイルごとに最大99個付けることができ、ファイルにマークの情報を記録します。
- 本機で録音したBWF形式で録音されたWAVファイルは、録音中に付けたマークの情報がファイルへ保存されます。BWF対応ソフトなどで、このマーク情報を使用することができます。
- マーク名 MARK SET [xxx] * が付きます。

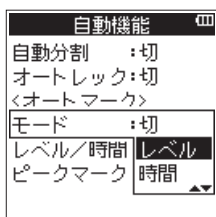
※ [xxx] は、全マークに共通の通し番号です。

録音中に自動でマークを付ける

オートマーク機能をオンにすると、設定した動作レベルや時間に応じて、自動的にマークを付けるようにすることができます。

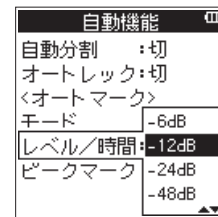
設定したレベルに応じて自動でマークを付ける

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
自動機能画面が表示されます。
3. ホイールを使って **オートマーク** の **モード** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
4. ホイールを使って、自動でマークを付けるモードを「**レベル**」に設定します。



選択肢: 切 (初期値)、レベル、時間

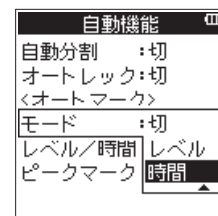
5. ENTER/MARKボタンを押して、設定した動作モードを確認します。
6. ホイールを使って **オートマーク** 項目の **レベル/時間** を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



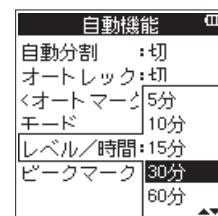
7. ホイールを使って自動でマークを付けるレベルを設定します。
選択肢: -6dB、-12dB (初期値)、-24dB、-48dB
8. ENTER/MARKボタンを押して、設定した動作モードを確認します。
9. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

設定した時間に応じて自動でマークを付ける

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
自動機能画面が表示されます。
3. ホイールを使って **オートマーク** の **モード** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
4. ホイールを使って、自動でマークを付けるモードを **時間** に設定します。



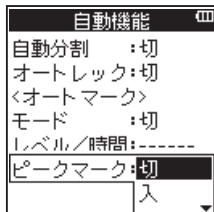
5. ENTER/MARKボタンを押して、設定した動作モードを確認します。
6. ホイールを使って **オートマーク** 項目の **レベル/時間** を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



7. ホイールを使って、自動でマークを付ける時間を設定します。
選択肢: 5分、10分、15分、30分、60分 (初期値)
8. ENTER/MARKボタンを押して、設定した時間を確認します。
9. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

PEAKインジケータ点灯時に自動でマークを付ける

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
自動機能画面が表示されます。
3. ホイールを使って **オートマーク** の **ピークマーク** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、ピークマーク機能を「入」に設定します。
選択肢：切（初期値）、入
5. ENTER/MARKボタンを押して、設定を確定します。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- PEAKインジケータ点灯の2秒手前にマークを付けます。
- PEAKインジケータ点灯によるマークがついてから10秒間は、新たにPEAKインジケータ点灯によるマークとオートマークのLEVELによるマークは付きません。
- オートディバインド機能を使用する際に、PEAKインジケータ点灯によるマークでは分割されません。

マークの位置への移動

一時停止中に、選択されているファイルに登録されているマークの位置へ移動することができます。また、複数ある場合は、現在のマークの位置に近い順に移動します。
頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

1. 停止中または再生中にENTER/MARKボタンを押しながら、◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押します。

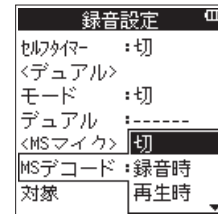
メモ

異なるファイルのマークへの移動はできません。

MSマイクを使う

本機には、MSデコーダーが搭載されており、MSマイクを使用した録音／再生ができます。

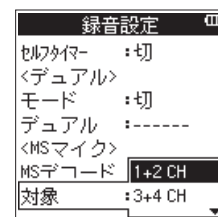
1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **録音設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
録音設定画面が表示されます。
3. ホイールを使って **MSデコード** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、MSマイク使用時のデコードモードを設定します。

選択肢	内容
切（初期値）	通常モードでの録音を行います。
録音時	デコードしながら録音するとき使用するモードです。 再生は、通常の再生を行います。
再生時	あとからデコードする目的でMSマイクの出力をデコードせずに録音するとき、録音時にモニターする場合に使用するモードです。 すでにデコードせずに録音したファイルをデコードして再生する場合にも使用します。

5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. ホイールを使って **対象** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



7. ホイールを使って、MSマイクを使用するチャンネルを設定します。
選択肢：1+2 CH、3+4 CH（初期値）
8. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
9. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

MSマイクが使える状況は、以下の通りです。

- 4CHモードでは、EXT MIC/LINE IN端子にMSマイクを入力した時と、MSマイクで録音された外部ファイルを本機で再生する時
- MTRモードでは、EXT MIC/LINE IN端子にMSマイクを入力した時（入力でチャンネルの変更は可能）

パンチイン／アウト（MTRモードのみ）

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使うテクニックです。

手動でパンチイン／アウトを行う

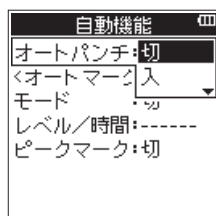
レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生（または停止）に切り換えます（パンチアウト）。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。（→ 19ページ「動作モードの選択」）
2. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。
差し替えた音声が入元のトラック音声とうまくつながるようなポイントを選びます。
3. 差し替えたいトラックの **TRACK/INPUT** ボタンを押して、録音待機状態にします（**RECORD**インジケータ点滅）。
4. **▶/||** ボタンを押して、差し替え部分の手前から再生を始めます。
5. 差し替え部分に来たら **RECORD** ボタンを押します。
録音に切り換わります（パンチイン）。
6. 差し替え部分の終わりに来たら **■/HOME** ボタンを押します。
再生に切り換わります（パンチアウト）。

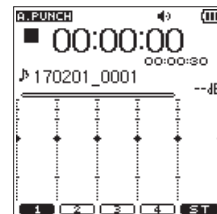
自動でパンチイン／アウトを行う（オートパンチ機能）

設定したIN点（始点）とOUT点（終点）において、自動的に録音を開始（パンチイン）し、終了（パンチアウト）することができます。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。（→ 19ページ「動作モードの選択」）
2. **再生機能** 画面でループのIN点（始点）とOUT点（終点）を設定します。（→ 42ページ「指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）」）
3. **■/HOME** ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
4. **MENU** ボタンを押して、**メニュー** 画面を表示します。
5. ホイールを使って **自動機能** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK** ボタンまたは **▶▶** ボタンを押します。
自動機能 画面が表示されます。
6. ホイールを使って **オートパンチ** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK** ボタンまたは **▶▶** ボタンを押します。



7. ホイールを使って「入」を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK** ボタンを押します。
選択肢：切（初期値）、入
8. 設定が終了したら、**■/HOME** ボタンを押してホーム画面に戻ります。
オートパンチ機能がオンのときは、ホーム画面上部に **A.PUNCH** アイコンが表示されます。



9. 録音したいトラックを **TRACK/INPUT** ボタンで選択します。
10. **RECORD** ボタンを押すと再生が始まり、手順1.にて設定したIN点（始点）において録音を開始されます。
また、手順1.にて設定したOUT点（終点）において録音が停止します。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD / SDHC / SDXCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット (録音時の設定)		SD / SDHC / SDXCカード容量				
		1GB	4GB	8GB	32GB	
WAV / BWF 16ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間34分	6時間17分	12時間35分	50時間23分	
	48kHz	1時間26分	5時間47分	11時間34分	46時間17分	
	96kHz	43分	2時間53分	5時間47分	23時間08分	
WAV / BWF 24ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間02分	4時間11分	8時間23分	33時間35分	
	48kHz	57分	3時間51分	7時間42分	30時間51分	
	96kHz	28分	1時間55分	3時間51分	15時間25分	
MP3 (STEREO / MONO)	32kbps	44.1kHz / 48kHz	69時間26分	277時間	555時間	2222時間
	64kbps	44.1kHz / 48kHz	34時間43分	138時間	277時間	1111時間
	96kbps	44.1kHz / 48kHz	23時間08分	92時間35分	185時間	740時間
	128kbps	44.1kHz / 48kHz	17時間21分	69時間26分	138時間	555時間
	192kbps	44.1kHz / 48kHz	11時間34分	46時間17分	92時間35分	370時間
	256kbps	44.1kHz / 48kHz	8時間40分	34時間43分	69時間26分	277時間
	320kbps	44.1kHz / 48kHz	6時間56分	27時間46分	55時間33分	222時間

- 上記録音時間は理論値であり、ご使用のSD / SDHC / SDXCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD / SDHC / SDXCカードに可能な録音合計時間です。
- 録音時間が24時間を超えると、自動的に新しいファイルを作成し、録音を継続します。
- WAV形式のMONO録音の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。
- WAV / BWF形式のデュアル録音 / 4チャンネル録音の場合は、上記録音時間の約半分の時間となります。

第5章 ファイルやフォルダーの操作（4CHモードのみ）

ファイルブラウザ画面では、SDカード上の **MUSIC** フォルダ（オーディオファイルの格納フォルダ）の内容の閲覧、ファイルやフォルダの削除、フォルダの新規作成などを行うことができます。

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも **MUSIC** フォルダ内のフォルダ構成の変更やファイルの削除ができます。さらに、パソコンからファイル名の編集が可能です。

ファイルブラウザ画面を表示するには、**MENU**ボタンを押して **メニュー**画面を表示し、**ホイール**を使って **ファイルブラウザ**項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは **▶▶**ボタンを押します。



この画面には、ファイルブラウザ画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

ファイルブラウザ画面内のナビゲーション

ファイルブラウザ画面にフォルダや音楽ファイルが「階層ツリー形式」で表示されます。

フォルダは、第2階層まで作成できます。

- **ホイール**を使って、ファイルやフォルダを選択（反転表示）します。
- フォルダを選択中（反転表示中）に **▶▶**ボタンを押すと、フォルダの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダを選択中（反転表示中）に **◀◀**ボタンを押すと、1つ上の階層に移動します。
- フォルダやファイルを選択中（反転表示中）に **QUICK**ボタンを押すと、クイックメニューがポップアップ表示されます。
- ファイルを選択中（反転表示中）に **ENTER/MARK**ボタンまたは **▶▶**ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルがロードされます。
このファイルを含むフォルダがカレントフォルダ（現在選択されているフォルダ）になり、録音したファイルが記録されるフォルダとなります。
- ファイル選択中（反転表示中）に **▶/||**ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルが再生されます。
- フォルダを選択中に **ENTER/MARK**ボタンを押すと、ホーム画面に戻ってそのフォルダの最初のファイルがロードされます。
このフォルダがカレントフォルダ（現在選択されているフォルダ）になり、録音したファイルが記録されるフォルダとなります。

ファイルブラウザ画面内のアイコン表示

以下にファイルブラウザ画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダ (M)

ルート（ROOT）階層表示中のファイルブラウザ画面では、最上段にMUSICフォルダが表示されます。

オーディオファイル (M)

音楽ファイルは、**M**アイコンのあとにファイル名が表示されます。

フォルダ (F)

内部にフォルダが存在するフォルダです。

フォルダ (□)

内部にフォルダが存在しないフォルダです。

表示中のフォルダ (M)

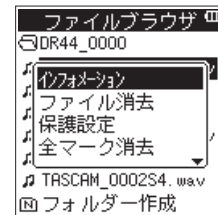
現在、このフォルダの内容を画面表示しています。

新しいフォルダ (M)

新しいフォルダを作成します。

ファイル操作

ファイルブラウザ画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し **QUICK**ボタンを押すと、以下のクイックメニューがポップアップ表示されます。



ホイールを使って項目を選択（反転表示）し **ENTER/MARK**ボタンを押すと、選択した項目に応じて以下の動作を行います。

インフォメーション

選択したファイルの情報（日付、サイズ）がポップアップ表示されます。



再度 **■/HOME**ボタンを押すと、ファイルブラウザ画面に戻ります。

ファイル消去

選択したファイルの削除を確認するポップアップメッセージが表示されます。



ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、■/HOMEボタンを押すと削除が中止されます。

ファイルをプロテクトする（4CHモードのみ）

ファイルをプロテクトし、読み取り専用ファイルに変更します。

1. ファイルブラウザ画面で、プロテクトしたいファイルを選択（反転表示）します。
2. QUICKボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、ホイールを使って保護設定項目を選択（反転表示）します。



3. ENTER/MARKボタンを押します。

選択したファイルをプロテクトする確認のポップアップメッセージ「ファイル保護」が表示されます。

すでにファイルがプロテクトされている場合は、「保護解除」が表示されます。



4. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルがプロテクトされファイルブラウザ画面に戻ります。すでにファイルがプロテクトされている場合は、プロテクトが解除されファイルブラウザ画面に戻ります。

■/HOMEボタンを押すと、プロテクトが中止されファイルブラウザ画面に戻ります。

メモ

- プロテクトしたファイルと同じプロジェクトに属するファイルは、全てプロテクトされます。
- プロテクト状態は、ファイルブラウザ画面のクイックメニューのインフォメーション項目で確認することができます。

マークを全て削除する（4CHモードのみ）

1. ファイルブラウザ画面で、全てマークを削除したいファイルを選択（反転表示）します。
2. QUICKボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、ホイールを使って全マーク消去項目を選択（反転表示）します。



3. ENTER/MARKボタンを押します。

以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. ENTER/MARKボタンを押すと、マークが削除されファイルブラウザ画面に戻ります。

■/HOMEボタンを押すと、マークの削除が中止されファイルブラウザ画面に戻ります。

第5章 ファイルやフォルダーの操作 (4CHモードのみ)

フォルダー操作

ファイルブラウザ 画面内の希望のフォルダーを選択し、**QUICK**ボタンを押すと、以下のクイックメニューがポップアップ表示されます。



ホイールを使って項目を選択 (反転表示) し **ENTER/MARK** ボタンを押すと、選択した項目に応じて以下の動作を行います。

フォルダ選択

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。また、この操作で選択されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

全ファイル消去

選択したフォルダー内のファイルの一括削除を確認するポップアップメッセージが表示されます。



ENTER/MARK ボタンを押すとファイルが削除され、**■/HOME** ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ

- 書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除できません。
- 選択されたフォルダーの別階層にあるファイルは、削除されません。
- ルートフォルダー (MUSIC) 内のファイルを一括削除する場合は、**ファイルブラウザ** 画面で最上層に移動し **MUSIC** を反転させた状態から、クイックメニューの **全ファイル消去** を選択します。

空フォルダーを削除する (4CHモードのみ)

- ファイルブラウザ** 画面で、削除したい空フォルダーを選択 (反転表示) します。
- QUICK** ボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、**ホイール** を使って **フォルダ消去** 項目を選択 (反転表示) します。



- ENTER/MARK** ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



メモ

フォルダーが空でない場合は、「全ファイル消去を先に行って下さい」というポップアップメッセージが表示されます。

- ENTER/MARK** ボタンを押すと、空フォルダーが削除され **ファイルブラウザ** 画面に戻ります。
■/HOME ボタンを押すと、空フォルダーの削除が中止され **ファイルブラウザ** 画面に戻ります。

新しいフォルダーを作る

各フォルダーの一番下には、**フォルダー作成** があります。



1. **フォルダー作成** を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは **▶▶** ボタンを押します。新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



2. **ENTER/MARK** ボタンを押すとフォルダーが作成されます。
■/HOMEボタンを押すと作成を中止します。

メモ

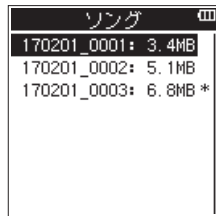
本機では3階層以上のフォルダーを扱うことはできないため、第2階層のフォルダーには **フォルダー作成** はありません。新規に作成されたフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。

第6章 ソングの管理 (MTRモードのみ)

本機のMTRモードでは、1つの曲(録音データのグループ)を1ソングとして扱い、ソングごとにデータの管理を行っています。1つのソングには、4つのトラックとミックスダウン後のマスターファイルが保存されます。

録音、楽曲制作を行う場合は、制作途中のソングを読み込むか、新規のソングを作成する必要があります。

本章では、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。



ソング操作

ソング画面内の希望のソングファイルを選択(反転表示)しQUICKボタンを押すと、以下のクイックメニューがポップアップ表示されます。



ホイールを使って希望の項目を選択(反転表示)しENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

読み込み

選択したソングをロードします。

新規作成

新しいソングを作成します。

インフォメーション

選択したソングの情報(日付、サイズ)が、ポップアップ表示されます。



ソング名変更

選択したソングの名前を編集します。

ソング消去

選択したソングを消去します。

ソングをロードする

以下の手順で、希望のソングをロードします。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. レコーダーが停止中に**MENU**ボタンを押して、**メニュー**画面を表示します。
3. ホイールを使って **ソング**項目を選択(反転表示)し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
ソング画面が表示されます。

メモ

現在ロード中のソングには、* アイコンが付いています。

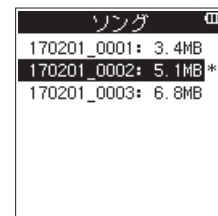
4. ホイールを使って希望のソングを選択(反転表示)し、**QUICK**ボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示します。



メモ

希望のソングを選択(反転表示)したあとに**ENTER/MARK**ボタンを押すと、選択したソングがロードされホーム画面に戻ります。

5. ホイールを使って **読み込み**項目を選択(反転表示)し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
選択したソングがロードされ、ポップアップ表示が消えます。
選択したソングに * アイコンが移動します。



6. **■/HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

新しいソングを作成する

以下の手順で、新規のソングを作成します。

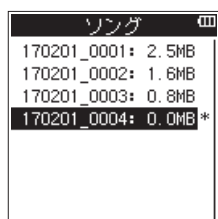
1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. レコーダーが停止中に**MENU**ボタンを押して、**メニュー**画面を表示します。
3. ホイールを使って **ソング**項目を選択(反転表示)し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
ソング画面が表示されます。
4. **QUICK**ボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、ホイールを使って **新規作成**項目を選択(反転表示)します。



5. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、新しいソングのフォーマットを設定するポップアップ表示されます。



6. ホイールを使って、新しいソングのフォーマットを設定します。
選択肢: 44.1kHz - 16bit (初期値)、44.1kHz - 24bit、
48kHz - 16bit、48kHz - 24bit
7. **ENTER/MARK**ボタンを押して、新しいソングを作成します。
■/HOMEボタンを押すと、**ソング**画面に戻ります。



メモ

作成されるソングには、**ファイル名設定**画面の**タイプ**項目の設定に沿ったソング名が付けられます。

8. 必要に応じてソングの名前(タイトル)を編集します。(→ 39ページ「ソング名を変更する」)

ヒント

後からでも、クイックメニューの**ソング名変更**項目を使ってソングの名前(タイトル)を編集することができます。また、ソングを保存するときにもソング名を編集することができます。

9. **■/HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

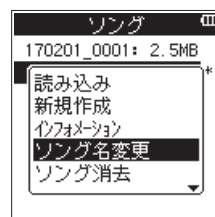
メモ

【MTR】フォルダーには、必ずソングが1つ以上存在しなければなりません。したがって、SDカード挿入時や、フォーマット時などに新規のソングが1つ作成されます。

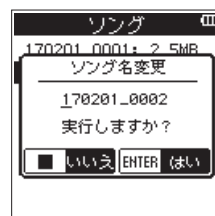
ソング名を変更する

以下の手順で、ソング名を変更します。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. レコーダーが停止中に**MENU**ボタンを押して、**メニュー**画面を表示します。
3. ホイールを使って **ソング**項目を選択(反転表示)し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
ソング画面が表示されます。
4. ホイールを使って、ソング名を変更したいソングを選択(反転表示)します。
5. **QUICK**ボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、ホイールを使って **ソング名変更**項目を選択(反転表示)します。



6. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、ソング名を変更する**ソング名変更**画面がポップアップ表示されます。



7. **◀◀**ボタンと**▶▶**ボタンを使ってカーソルを移動し、ホイールを使って文字を変更します。
8. **ENTER/MARK**ボタンを押してソング名を確定し、**ソング**画面に戻ります。
9. **■/HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

第6章 ソングの管理 (MTRモードのみ)

ソングを消去する

ソングを消去することができます。SDカードの空き容量が少なくなつた場合は、不要なソングを消去することをお勧めします。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. レコーダーが停止中に**MENU**ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
3. ホイールを使って **ソング** 項目を選択 (反転表示) し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
ソング画面が表示されます。
4. ホイールを使って、消去するソングを選択 (反転表示) します。
5. **QUICK**ボタンを押してクイックメニューをポップアップ表示し、ホイールを使って **ソング消去** 項目を選択 (反転表示) します。



6. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、選択したソングを消去する **ソング消去** 画面がポップアップ表示されます。



7. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、選択したソングが消去されます。
8. **■/HOME**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

《**MTR**》フォルダーには、必ずソングが1つ以上存在しなければなりません。したがって、SDカード挿入時や、フォーマット時などに新規のソングが1つ作成されます。

再生する

ホーム画面で停止中に▶/■ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

ファイルブラウザ画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

一時停止する

ホーム画面で再生中に▶/■ボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。

再度▶/■ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

停止する

ホーム画面で再生中に■/HOMEボタンを押すと一時停止状態となります。

再度、■/HOMEボタンを押すとファイルの先頭で停止状態となります。

早戻し／早送りをする（サーチ）

ホーム画面で再生中に◀◀ボタン／▶▶ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチ再生を行います。

メモ

◀◀ボタン／▶▶ボタンを押し続けると、サーチスピードが加速します。

再生位置を移動する

ホーム画面で停止中または一時停止中にホイールを使って、再生位置を移動することができます。

再生位置を移動後は、一時停止状態になります。

再生するファイルを選択する（スキップ）

ホーム画面で、◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押して再生したいファイルを選択します。

ファイルの再生途中で◀◀ボタンを押すとファイルの先頭へ戻り、ファイルの先頭で◀◀ボタンを押すと1つ前のファイルの先頭にスキップします。

ファイルの先頭または途中で▶▶ボタンを押すと、次のファイルへスキップします。

メモ

- 再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレイに表示されます。
- ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレイに動作アイコン「■」を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン「■」を表示します。
- ファイルを移動したい場合には、◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを必要なだけ押してください。

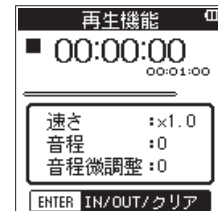
特殊な再生（再生コントロール機能）

本機の再生コントロール機能を使って、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生できます。また、音程を変えずに再生スピードを変えたり、再生スピードを変えずに音程を変えることができます。これらの再生コントロール機能を使って、練習やフレーズコピーを効果的に行うことができます。

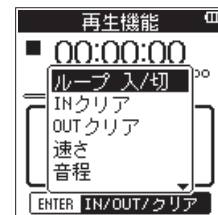
再生コントロール機能の設定

再生コントロール機能の設定は、再生機能画面で行います。この画面では、ループ再生、再生スピードの変更、キーの変更の設定ができます。以下の方法で再生コントロール機能の設定を行います。

- ホーム画面で停止中／一時停止中／再生中にQUICKボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
- ホイールを使って再生機能項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。再生機能画面を表示します。



- QUICKボタンを押して再生機能画面のクイックメニューをポップアップ表示します。



ループ 入/切

ループ再生機能をオン/オフします。（→ 42ページ「指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）」）

INクリア

ループ再生のIN点（始点）のみをクリアします。（→ 42ページ「IN点（始点）またはOUT点（終点）のみを消去する」）

OUTクリア

ループ再生のOUT点（終点）のみをクリアします。（→ 42ページ「IN点（始点）またはOUT点（終点）のみを消去する」）

速度

再生スピードを変更する画面をポップアップ表示します。（→ 42ページ「再生スピードを変える（VSA機能）」）

音程

キーを変更する画面をポップアップ表示します。（→ 43ページ「キーコントロール再生」）

音程微調整

キーを変更する画面をポップアップ表示します。（→ 43ページ「キーコントロール再生」）

- ホイールを使ってクイックメニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
- この画面内での設定作業を終えたあと、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）

以下の手順で、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

1. **再生機能** 画面表示中に▶/|| ボタンを押して再生し、ループ再生したい区間の始点でENTER/MARKボタンを押します。



現在位置がIN点（始点）として設定されます。再生位置表示バーの下部には、該当する位置に **IN** アイコンが点灯します。

2. ループ再生したい区間の終点でENTER/MARKボタンを押します。



現在位置がOUT点（終点）として設定され、IN-OUT点間のループ再生が開始されます。

再生位置表示バーの下部には、該当する位置に **OUT** アイコンが点灯します。

ループ再生中は、レコーダーの動作状況表示の下側に **IO** アイコンが点灯します。

■/HOMEボタンを押すと、IN点（始点）／OUT点（終点）の設定およびループ設定が有効なままホーム画面に戻ります。このとき、ホーム画面でも **IO** アイコンが点灯し、再生位置表示バーの下部には、IN点（始点）／OUT点（終点）に該当する位置に **IN** / **OUT** アイコンが点灯します。

メモ

- IN-OUT点間が短すぎる場合には、「**間隔が短かすぎます**」というポップアップメッセージが表示されます。1秒以上空けて設定し直してください。
- 再度ENTER/MARKボタンを押すと、IN点（始点）およびOUT点（終点）をクリアします。
- ループ再生を中止するには、**再生機能** 画面のクイックメニュー **ループ 入/切** 項目を「切」に設定します。そのときホーム画面の **IO** アイコンは消灯します。再度 **ループ 入/切** 項目を「入」にすると、設定されているIN-OUT点間でループ再生を行います。
- 2つ以上のファイルをまたいでのIN点（始点）およびOUT点（終点）の設定はできません。
- 違うファイルに対してIN点（始点）を設定すると、以前のIN点（始点）およびOUT点（終点）の設定は解除されます。
- MP3ファイルがVBR（可変ビットレート）形式の場合は、正確なIN点（始点）およびOUT点（終点）の指定ができない場合があります。

IN点（始点）またはOUT点（終点）のみを消去する

1. **再生機能** 画面表示中にQUICKボタンを押して、**再生機能** 画面のクイックメニューをポップアップ表示します。
2. ホイールを使って **INクリア** 項目または **OUTクリア** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。設定したIN点（始点）またはOUT点（終点）が消去されます。

再生速度を変える（VSA機能）

本機では、VSA機能（Variable Speed Audition）が搭載されており、再生音の音程を保ったまま再生速度を変えることができます。

注意

サンプリング周波数96kHzで録音されたファイルを選択しているとき、またはMP3で3チャンネル（トラック）以上のチャンネル（トラック）が存在するときは、VSA機能は使用できません。ただし、このときにも **SPEED** アイコンが表示され、再生速度の変更は行うことができます。

このファイルでは有効になりませんが、ホーム画面に戻って◀▶ボタンや▶▶ボタンを使うなどして44.1k/48kHzのファイルをロードしたときに、再生速度の設定が有効になります。

1. **再生機能** 画面表示中にQUICKボタンを押して、**再生機能** 画面のクイックメニューをポップアップ表示します。
2. ホイールを使って **速度** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。再生速度を変更する画面をポップアップ表示します。



3. ホイールを使って、再生速度の値を変更します。
選択肢：×0.5 ～ ×2.0（初期値：×1.0、×0.1 刻み）
4. ENTER/MARKボタンを押して値を確定し、**再生機能** 画面のクイックメニューのポップアップ表示に戻ります。
5. ■/HOMEボタンを押すと、設定した再生速度が有効なままホーム画面に戻ります。再生速度が 1.0 倍より大きいときには **SPEED+** アイコン、1.0 倍より小さいときには **SPEED-** アイコンとホーム画面上部に表示されます。

キーコントロール再生

本機では、キーコントロール機能をつかって再生時のキー（音の高さ）を変えることができます。

音程 項目と **音程微調整** 項目があり、**音程** 項目では±6半音の範囲、**音程微調整** 項目では±50セントの範囲でキーを上下できます。

注意

サンプリング周波数96kHzで録音されたファイルを選択しているとき、またはMP3で3チャンネル（トラック）以上のチャンネル（トラック）が存在するときは、キーコントロール機能は使用できません。ただし、このときにも **KEY** アイコンが表示され、再生スピードの変更は行うことができます。

このファイルでは有効になりませんが、ホーム画面に戻って **◀◀** ボタンや **▶▶** ボタンを使うなどして44.1k/48kHzのファイルをロードしたときに、キーコントロール機能の設定が有効になります。

1. **再生機能** 画面表示中に**QUICK**ボタンを押して、**再生機能** 画面のクイックメニューをポップアップ表示します。
2. ホイールを使って **音程** 項目または **音程微調整** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。キーを変更する画面をポップアップ表示します。



[音程 項目のポップアップ表示]



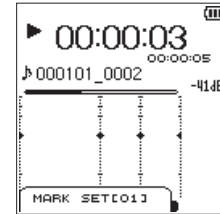
[音程微調整 項目のポップアップ表示]

3. ホイールを使って、キーの値を変更します。
選択肢
音程 選択時：#6 ~ #6（初期値：#0、半音刻み）
音程微調整 選択時：-50 ~ +50（初期値：+0、1セント刻み）
4. **ENTER/MARK**ボタンを押して値を確定し、**再生機能** 画面のクイックメニューのポップアップ表示に戻ります。
5. **■/HOME**ボタンを押すと、設定したキーが有効なままホーム画面に戻ります。
 キーコントロール機能がオンのとき、ホーム画面上に **KEY** アイコンが表示されます。

再生中に手動でマークを付ける

再生中に**ENTER/MARK**ボタンを押すと、その位置にマークを付けることができます。

登録したマーク番号がディスプレイの下部にプルアップ表示されます。



指定したマークを消去する

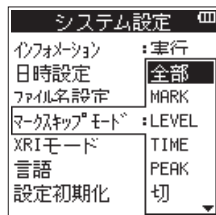
すでにマークのある位置で一時停止中、**ENTER/MARK**ボタンを押すとマークを消去することができます。



マークスキップモードを設定する

ファイルに付けることのできるマークの種類が複数（マニュアル / レベル / 時間 / ピーク）あるため、マークの位置への移動の際に、どのマークに移動するかを設定することができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **システム設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
システム設定画面が表示されます。
3. ホイールを使って **マークスキップモード** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、マークスキップモードを設定します。

選択肢

- 全部（初期値）：全てのマークに移動
- MARK：手動で付けたマークに移動
- LEVEL：オートマーク機能の「レベル」で付けたマークに移動
- TIME：オートマーク機能の「時間」で付けたマークに移動
- PEAK：PEAKインジケーター点灯時に付けたマークに移動
- 切：マークに移動しない

5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確認し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が完了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

QUICKボタンの概要

QUICKボタンを使うと、次のことができます。

- ホーム画面で停止中または一時停止中に押すと、現在のファイルの情報表示、再生コントロール機能の設定、ミックスダウンなどを行うためのクイックメニューをポップアップ表示します。



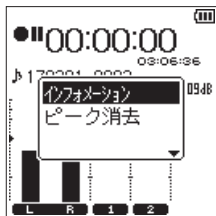
[4CHモード時の停止中／一時停止中のクイックメニュー表示]

再生中は、現在のファイルの情報表示、再生コントロール機能の設定、レベルメーターのピークホールドクリアを行うためのクイックメニューをポップアップ表示します。



[4CHモード時のホーム画面・再生中のクイックメニュー表示]

録音待機中／録音中は、現在のファイルの情報表示、レベルメーターのピークホールドクリアを行うためのクイックメニューをポップアップ表示します。



[4CHモード時のホーム画面・録音待機中のクイックメニュー表示]

- ファイルブラウザ画面またはソング画面では、選択されているファイルまたはフォルダーを操作するクイックメニューをポップアップ表示します。(→ 34ページ「第5章 ファイルやフォルダーの操作 (4CHモードのみ)」)、(→ 40ページ「第6章 ソングの管理 (MTRモードのみ)」)



[4CHモード時のファイルブラウザ画面のクイックメニュー表示]

メモ

メニュー画面および録音設定画面などの各種設定画面では、QUICKボタンは無効です。

表示画面、状態におけるQUICKボタンの動作は、次のようになります。

表示画面	状態	動作内容
ホーム画面	停止中／一時停止中	ファイル情報表示 (4CHモードのみ) 再生コントロール機能の設定 レベルメーターのピークホールドのクリア ファイルの削除と分割 (4CHモードのみ) ミックスダウン トラッククリア機能 (MTRモードのみ) バウンス機能 (MTRモードのみ) マスタートラック機能 (MTRモードのみ)
	再生中	ファイル情報表示 (4CHモードのみ) 再生コントロール機能の設定 レベルメーターのピークホールドのクリア
	録音待機中	ファイル情報表示 (4CHモードのみ) レベルメーターのピークホールドのクリア (4CHモードのみ)
	録音中	ファイル情報表示 (4CHモードのみ)、 レベルメーターのピークホールドのクリア
ファイルブラウザ画面／ソング画面		選択したファイル／フォルダー (またはソング) を操作するクイックメニューをポップアップ表示
メニュー画面／ミキサー画面、各種設定画面		動作せず

クイックメニューの操作

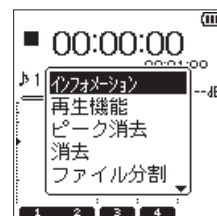
ホーム画面表示中にQUICKボタンを押すと、クイックメニューがポップアップ表示されます。

ホイールを使って希望のクイックメニュー項目を選択 (反転表示) しENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

メモ

クイックメニューに表示される内容は、QUICKボタンを押したときの状態により動作が異なります。

- ホーム画面で停止中または一時停止中のとき、以下の機能が選択できます。



[4CHモード時の停止中／一時停止中のクイックメニュー表示]

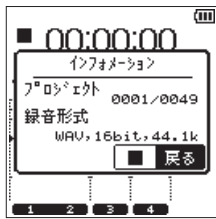


[MTRモード時の停止中／一時停止中のクイックメニュー表示]

第8章 QUICKボタンの操作

インフォメーション (4CHモードのみ) :

現在のファイルまたはソングの情報を表示します。



再生機能 :

再生機能 画面を表示します。(→ 41ページ「」)

ピーク消去 :

レベルメーターに表示されたピークレベル表示を消去します。

消去 (4CHモードのみ) :

現在のファイルの削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。(→ 47ページ「選択ファイルを削除する (クイックデリート、4CHモードのみ)」)

ファイル分割 (4CHモードのみ) :

現在のファイルを手動で分割することができます。(→ 47ページ「選択ファイルを手動で分割する (ファイル分割)」)

マーク分割 (4CHモードのみ) :

現在のファイルをあらかじめマークを付けた位置で自動的に分割することができます。(→ 48ページ「選択ファイルを自動で分割する (マーク分割)」)

ミックスダウン :

4チャンネル (2ファイル以上) を、L / Rの2チャンネル (1ファイル) にまとめる機能です。

この時、エフェクトレベル、音量バランス、左右の定位を、ミキサー画面にて自由に設定できます。(→ 50ページ「ミックスダウン」)

バウンス (MTRモードのみ) :

現在のソングをトラックバウンスすることができます。(→ 49ページ「トラックバウンス (MTRモードのみ)」)

トラック消去 (MTRモードのみ) :

現在のソングを1トラックずつ消去することができます。(→ 48ページ「トラックを消去する (MTRモードのみ)」)

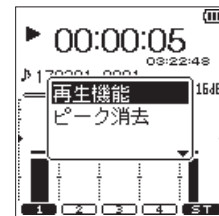
マスタートラック (MTRモードのみ) :

作成したマスタートラックをロードすることができます。(→ 50ページ「マスタートラックをロードする (MTRモードのみ)」)

- ホーム画面で再生中のとき、以下の機能が選択できます。

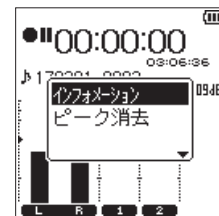


[4CHモード時のホーム画面・再生中のクイックメニュー表示]



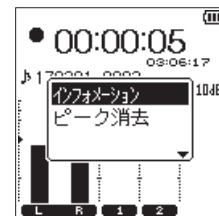
[MTRモード時のホーム画面・再生中のクイックメニュー表示]

- 4CHモード時のホーム画面で録音待機中のとき、以下の機能が選択できます。

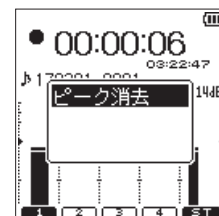


[4CHモード時の録音待機中のクイックメニュー表示]

- ホーム画面で録音中のとき、以下の機能が選択できます。



[4CHモード時の録音中のクイックメニュー表示]



[MTRモード時の録音中のクイックメニュー表示]

クイックメニューを閉じる

クイックメニューのポップアップ表示を閉じるには、QUICKボタンを押します。

選択ファイルを削除する (クイックデリート、4CHモードのみ)

ファイルブラウザ 画面を使わずに、現在選択されているファイルを削除することができます。

1. ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタンを使って、削除したいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中にQUICKボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
3. ホイールを使って 消去 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルが削除されホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、削除が中止されホーム画面に戻ります。

メモ

ホーム画面表示中にクイックメニューの 消去 項目でファイルを削除した場合は、選択中の全チャンネル分のファイルを削除します。
ファイルブラウザ 画面表示中にクイックメニューの ファイル消去 項目でファイルを削除した場合は、ファイルごとにファイルの削除が可能です。

選択ファイルを分割する (4CHモードのみ)

録音したファイルを手動で、またはマークを付けた位置でファイルを分割することができます。

注意

- MP3ファイルは、分割できません。
- SDカードの残容量が少ない場合は、分割できないことがあります。
- ファイル名が200文字以上になる場合は、分割できません。
- 分割後のファイル名と同名のファイルが存在する場合は、分割できません。

選択ファイルを手動で分割する (ファイル分割)

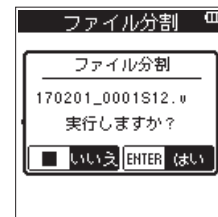
録音したファイルを任意の位置で、2つのファイルに分割することができます。

1. ◀◀ ボタンまたは ▶▶ ボタン、もしくは ファイルブラウザ 画面で、分割したいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中にQUICKボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。

3. ホイールを使って ファイル分割 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
以下の ファイル分割 画面が表示されます。



4. ホイールを使って分割する位置を決定し、RECORDボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



5. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルを分割後にホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、分割されずに ファイル分割 画面に戻ります。

メモ

- ファイル分割 画面表示中に ▶/|| ボタンを押し、再生しながら位置を決めることもできます。
- ファイル分割 画面表示中は、▶/|| ボタンで再生、■/HOME ボタンで一時停止、◀◀ ボタンでファイルの先頭に、▶▶ ボタンでファイルの最後に移動します。ホイールを使って分割位置の微調整が行えます。
- 分割すると、ファイル名の末尾に「_a」または「_b」が付加されたファイルが作成されます。
(4CHモードの録音ファイル例)
分割前のファイル名
140826_0001S12.wav
140826_0001S34.wav
分割後のファイル名
140826_0001_aS12.wav (分割点より前の部分)
140826_0001_aS34.wav (分割点より前の部分)
140826_0001_bS12.wav (分割点より後の部分)
140826_0001_bS34.wav (分割点より後の部分)
- 現在選択されているファイルが複数ファイルの場合は、複数のファイルが同時に分割されます。

ヒント

録音中にあらかじめ分割したい位置にマークを付けておくことができます。(→ 30ページ「録音中にマークを付ける」)

第8章 QUICKボタンの操作

選択ファイルを自動で分割する（マーク分割）

オートディバイド機能を使って、録音済みのファイルのマークが付けられた位置からファイルを自動で分割することができます。

メモ

マークの付け方は、30ページ「録音中にマークを付ける」をご参照ください。

1. ◀▶ボタンまたは▶▶ボタン、もしくは **ファイルブラウザ** で、マーク位置から分割したいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
3. ホイールを使って **マーク分割** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



メモ

ファイルにマークがない場合は、「マークがありません」というポップアップメッセージが表示されます。

4. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、ファイルが分割されホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、分割が中止されホーム画面に戻ります。

メモ

- 分割すると、ファイル名の末尾に「_01 / _02 / _03」のように順番に数字が付加されたファイルが作成されます。

(例) マークが2箇所

分割前のファイル名

140826_0001.wav

分割後のファイル名

140826_0001_01.wav

140826_0001_02.wav

140826_0001_03.wav

- オートマーク機能と併用することで、長時間録音されたファイルを自動で曲ごとに分割することができます。(→ 30ページ「録音中に自動でマークを付ける」)

トラックを消去する（MTRモードのみ）

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. **ソング** 画面で、トラックを消去したいソングをロードします。(→ 38ページ「ソングをロードする」)
3. ホーム画面で停止中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
4. ホイールを使って **トラック消去** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
消去するトラックを選択する画面がポップアップ表示されます。



5. ホイールを使って消去するトラックを選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。

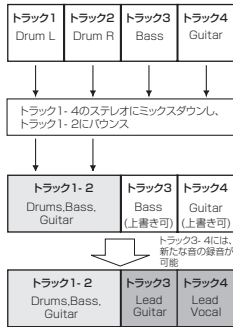


6. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、選択したトラックの消去後にホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、消去されずにホーム画面に戻ります。

トラックバウンス (MTRモードのみ)

本機のトラックバウンス (ピンポン録音) 機能を使って、録音済みのトラック1-4をミックスして1つのトラックにまとめることができます。

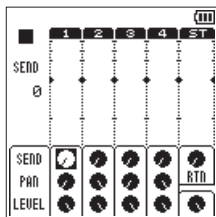
トラック1-4をミックスダウンしてトラック1-2に録音 (ステレオバウンス)、あるいはトラック1-4をモノラルミックスしてトラック1に録音 (モノラルバウンス) といったことが可能です。



再生トラック自身に録音した場合は、当然、元の再生トラックは消去されます (上図ではトラック1-2のドラムスパートがミックス信号で上書きされます)。

トラックバウンスを行う

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。(→ 19ページ「動作モードの選択」)
2. **ソング** 画面で、トラックバウンスしたいソングをロードします。(→ 38ページ「ソングをロードする」)
3. バウンス先にしたいトラックの **TRACK/INPUT** ボタンを押し、**TRACK/INPUT** ボタンを点滅させます。
バウンス先として選択したトラックのうち、奇数トラックにはミックスダウンされたステレオ音源のLチャンネルが、偶数トラックにはRチャンネルが上書きされます。
4. **MIXER** ボタンを押し、ミキサー画面を表示し、各トラックの **PAN** つまみと **LEVEL** つまみを調節します。(→ 51ページ「ミキサーを設定する」)



奇数トラックのモノラルバウンスの場合は各トラックの **PAN** つまみを「L12」に設定します。偶数トラックのモノラルバウンスの場合は各トラックの **PAN** つまみを「R12」に設定します。マスターレベルつまみで全体のレベルを調節します。

5. ミキサー画面を表示中に **MIXER** ボタンを押し、ホーム画面に戻ります。
6. 停止中 / 一時停止中 / 再生中に **QUICK** ボタンを押し、クイックメニューをポップアップ表示します。

7. ホイールを使って **再生機能** 項目を選択 (反転表示) し、**ENTER/MARK** ボタンを押します。
再生機能 画面を表示します。

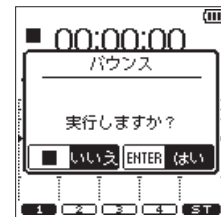


8. バウンスのIN点 (始点) / OUT点 (終点) を、ループ再生の区間として設定します。(→ 42ページ「指定した区間を繰り返し再生する (ループ再生)」)

メモ

IN点 (始点) / OUT点 (終点) が設定されていない場合は、00:00:00 から録音最終地点までをバウンスします。

9. **■/HOME** ボタンを押し、ホーム画面に戻り、**QUICK** ボタンを押し、クイックメニューをポップアップ表示します。
10. ホイールを使って **バウンス** 項目を選択 (反転表示) し、**ENTER/MARK** ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



11. **ENTER/MARK** ボタンを押すとトラックバウンスが開始され、バウンス終了後にホーム画面に戻ります。
■/HOME ボタンを押すと、トラックバウンスされずにホーム画面に戻ります。

バウンス結果を確認する

バウンス先のトラックの **LEVEL** つまみとマスターレベルつまみを上げて (他のトラックの **LEVEL** つまみは最小にします) から再生します。トラックバウンス後、バウンスしたトラックにも新たに録音 (上書き) することができます。

ヒント

後からオリジナルトラックが必要になる可能性がある場合は、バウンス (ピンポン録音) の前にソングのデータをパソコンにバックアップしておいてください。(→ 56ページ「第11章 パソコンと接続する」)

ミックスダウン

複数のファイルをまとめて、ステレオファイル（1ファイル）にまとめる機能です。

この時、各チャンネルのエフェクトレベル（SEND）、左右の定位（PAN）、音量バランス（LEVEL）の調整を、ミキサー画面にて自由に設定できます。（→ 51ページ「ミキサーを設定する」）

1. ◀▶/▶▶ボタン、もしくは動作モードが4CHモードの場合は **ファイルブラウザ** 画面で、動作モードがMTRモードの場合は **ソング** 画面でミックスダウンをしたいファイルを選択します。（→ 19ページ「動作モードの選択」）
2. ホーム画面で停止中/一時停止中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
3. ホイールを使って **ミックスダウン** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



[4CHモード時の停止中のポップアップ表示]

4. **ENTER/MARK**ボタンを押すとミックスダウンが開始され、ミックスダウン終了後にホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、ミックスダウンされずにホーム画面に戻ります。
5. ミックスダウン終了後、ホーム画面に戻り、ミックスダウンして作成されたファイルがロードされます。
この状態で▶/■ボタンを押すと、ミックスダウンされたファイルが再生されます。

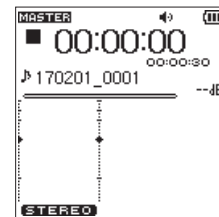
メモ

- ミックスダウンして作成されたファイル名の番号は、ミックスダウン前のファイル名の末尾番号が繰り上がった番号になります。
- 4CHモードで作成されたファイルをミックスダウンすると、ファイル名の末尾に「MIX」が付加されたファイルが作成されます。

マスタートラックをロードする (MTRモードのみ)

MTRモードで作成したファイルをミックスダウンしたファイルをロードします。

1. 動作モードを **MTR** モードに設定します。（→ 19ページ「動作モードの選択」）
2. **ソング** 画面で、ミックスダウンしたファイルをロードします。（→ 38ページ「ソングをロードする」）
3. ホーム画面で停止中/一時停止中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
4. ホイールを使って **マスタートラック** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。
マスタートラックがロードされ、ホーム画面が表示されます。



メモ

- マスタートラックをロード中のホーム画面は、ホーム画面上部に **MASTER** アイコンが表示されます。
 - マスターファイルがない場合は、「マスタートラックがありません」というポップアップメッセージが表示されます。
5. ▶/■ボタンを押すと、マスターファイルが再生されます。

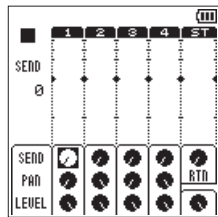
メモ

マスタートラックをロード後、クイックメニューの **マルチトラック** 項目を選択（反転表示）し**ENTER/MARK**ボタンを押すと、通常のMTRモードに戻ります。

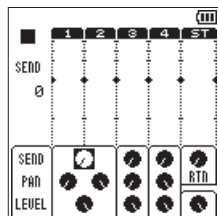
本機に内蔵しているエフェクトや、左右の定位、音量バランスを、チャンネルごとに設定できるミキサー機能があります。ミックスダウンや再生時に、これらを設定することにより、録音時の音に対し細かく変更ができます。(→ 50ページ「ミックスダウン」)

ミキサーを設定する

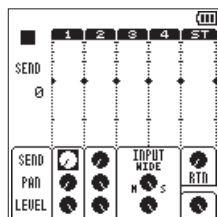
1. ホーム画面表示中にMIXERボタンを押して、ミキサー画面を表示します。



[4CHモード時]

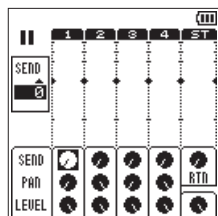


[ステレオリンク時]



[MSデコーダー使用時]

2. ホイールを使って、変更したい項目を選択（反転表示）します。
3. ENTER/MARKボタンを押すと、左側に設定項目名と設定値がポップアップ表示されます。



4. ホイールを使って、設定値を変更します。

項目	選択肢	動作内容
SEND	0 ~ 100	選択されているリバーブ (→ 54ページ「リバーブ機能」) の送りレベルの調節を行います。 (0 : 最小 ~ 100 : 最大)
PAN	L12 ~ C ~ R12	左右のバランス調節を行います。 (L12 : 左 ~ C : 中央 ~ R12 : 右)
LEVEL	0 ~ 100	音量バランスの調節を行います。 (0 : 最小 ~ 100 : 最大)
RTN	0 ~ 100	各チャンネル (トラック) から SEND で送られたリバーブのかかった信号の、全体の音量の調節を行います。

5. ENTER/MARKボタンを押すと元の場所へ戻り、次に設定値を変更したい場所を選択できる状態になります。

メモ

- 停止時、一時停止中、再生中、録音待機中、録音中のいずれの時も、操作が可能です。
- ミキサー画面表示中も、▶/|| ボタンでの再生、■/HOME ボタンでの再生一時停止が可能です。

第10章 便利な機能

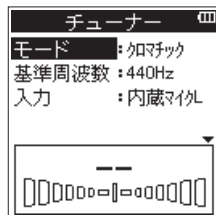
チューナー機能

内蔵のクロマチックチューナーを使って、ギターや管楽器のチューニングすることができます。

本機のチューナーには、チューニングメーターを見ながら楽器のチューニングができるクロマチックチューナーモードと、基準音を出力するオシレーターモードがあります。

クロマチックチューナーモード

1. ギターまたはベースをEXT MIC/LINE IN端子の1/L端子または2/R端子に接続します。
管楽器などをチューニングする場合は、内蔵ステレオマイクを使ってチューニングをします。
2. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
3. ホイールを使って ツール 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
ツール画面が表示されます。
4. ホイールを使って チューナー 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
チューナー項目の「実行」が反転表示になります。
5. ENTER/MARKボタンを押して、チューナー画面を表示します。

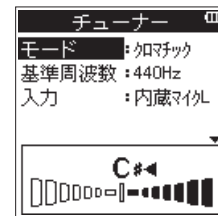


6. ホイールを使って モード 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
7. ホイールを使って、チューナーモードを「クロマチック」に設定します。
選択肢：クロマチック（初期値）、オシレーター
8. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
9. ホイールを使って 基準周波数 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
10. ホイールを使って、A4（ラ）の基準周波数を設定します。
選択肢：435Hz ~ 445Hz（初期値：440Hz）
11. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
12. ホイールを使って 入力 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

13. ホイールを使って、チューニングする音の入力先を設定します。

選択肢	入力先
内蔵マイクL（初期値）	内蔵ステレオマイクの右手前側から入力
内蔵マイクR	内蔵ステレオマイクの左奥側から入力
EXT IN 1	EXT MIC/LINE IN端子の1/L端子から入力
EXT IN 2	EXT MIC/LINE IN端子の2/R端子から入力

14. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
15. 楽器を弾いてチューニングを行います。
弾いた音に最も近い音名がチューニングメーター上部に表示されます。
合わせたい音名が表示されて、チューニングメーター中央部が点灯するように楽器をチューニングします。
チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。

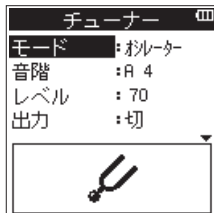


ぴったり合うと音名の左右の ▶ ◀ が点灯します。

16. チューニングが終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

オシレーターモード

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
ツール画面が表示されます。
3. ホイールを使って チューナー 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
チューナー項目の「実行」が反転表示になります。
4. ENTER/MARKボタンを押して、チューナー画面を表示します。
5. ホイールを使って モード 項目を選択し、ENTER/MARKボタンを押します。
6. ホイールを使って、チューナーモードを「オシレーター」に設定（反転表示）します。
選択肢：クロマチック（初期値）、オシレーター
7. ENTER/MARKボタンを押すと、チューナー画面がオシレーターモード表示に変更します。



オシレーターモード表示では、以下の設定ができます。

音階

出力する音を設定します。

設定範囲は、C3 ~ B5 です。（初期値：A4）

レベル

出力レベルを設定します。

設定範囲は、0（最小）～100（最大）です。（初期値：70）

8. ホイールとENTER/MARKボタンを使って、音階項目とレベル項目を設定します。
9. ホイールとENTER/MARKボタンを使って 出力項目の設定を「入」にすると、基準音を出力します。

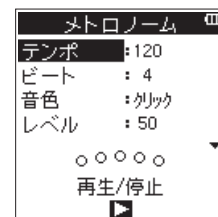


10. チューニングが終了したら 出力項目の設定を「切」にし、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

メトロノーム機能

メトロノームは、メトロノーム画面を表示中に動作します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
ツール画面が表示されます。
3. ホイールを使って メトロノーム項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
メトロノーム項目の「実行」が反転表示になります。
4. ENTER/MARKボタンを押して、メトロノーム画面を表示します。



メトロノーム画面では、以下の項目の設定を行います。

テンポ

スピードを20～250（BPM）の範囲で設定します。

（初期値：120）

ビート

拍子を1～9の範囲で設定します。（初期値：4）

拍子の1拍目にアクセントが付きます。

音色

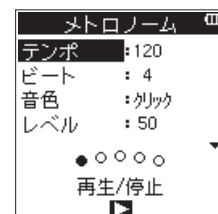
拍子の音を クリック / スティック / ベルの中から設定します。（初期値：クリック）

レベル

メトロノームの音量を0～100の範囲で設定します。

（初期値：50）

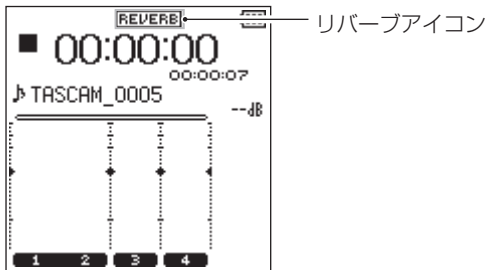
5. ホイールを使って設定する項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
設定する項目のパラメーター表示を開きます。
6. ホイールを使って値を設定し、ENTER/MARKボタンを押して値を確定します。
設定項目選択状態に戻ります。
7. 必要に応じて、手順5.～6.の操作を繰り返します。
8. メトロノームをスタートするには、▶/||ボタンを押します。
動作中のメトロノームを止めるには、▶/||ボタンを押します。



9. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

リバーブ機能

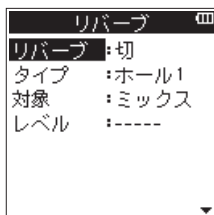
本機には、リバーブが内蔵されています。録音時や練習時、入力信号にリバーブを掛ける、または再生時に再生信号にリバーブを掛けることもできます。リバーブがオンのときは、ホーム画面上部に **REVERB** アイコンが表示されます。



リバーブアイコン

リバーブを設定する

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **リバーブ** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。リバーブ画面が表示されます。



リバーブ画面には、4つの設定項目があります。

リバーブ

リバーブの入 / 切 を設定します。（初期値：切）

タイプ

使用するリバーブをプリセットの中から設定します。リバーブタイプの内容については、54ページ「リバーブタイプのプリセット一覧」をご覧ください。

対象

リバーブをかける入出力音のソースを、下記の中から選択できます。（初期値：ミックス）

SOURCE(選択肢)	内容
ミックス (初期値)	SEND状態： 出力音に残響音を加えることができます。録音される音には影響ありません。
内蔵マイク	掛け録り状態： 内蔵マイクからの入力音に残響音を加えることができます。残響音を加えた音を録音することができます。
EXT IN	掛け録り状態： 外部マイクまたは外部機器からの入力音に残響音を加えることができます。残響音を加えた音を録音することができます。

「ミックス」を選択したとき、各信号のエフェクトへの送りレベル（SEND）をミキサー画面で設定することができます。（→ 51ページ「ミキサーを設定する」）

レベル

対象項目で設定したリバーブをかける入出力音のソースの入出力レベルを変更することができます。設定範囲は、0 ~ 100 です。（初期値：70）

3. ホイールを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押すと、選択肢 / 値の設定ができるようになります。
4. ホイールを使って、希望の選択肢 / 値に設定します。
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目状態にします。
6. 設定が終了したら、■/HOMEボタンを押します。

注意

サンプリング周波数を96kHzに設定しているとき、およびサンプリング周波数が96kHzのWAVファイルを再生した場合には、リバーブ機能は動きません。このとき、リバーブの設定をすることは可能です。

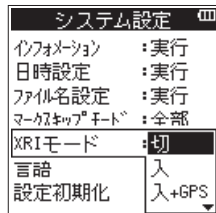
リバーブタイプのプリセット一覧

プリセットネーム	効果
ホール 1 (初期値)	ホールのような広い空間をイメージしたブライトなリバーブです。
ホール 2	ホールのような広い空間をイメージしたウォームなリバーブです。
ルーム	小さな室内の空間をイメージしたリバーブです。
スタジオ	スタジオのような空間をイメージしたリバーブです。
プレート 1	ブライトなプレートリバーブです。
プレート 2	ウォームなプレートリバーブです。

XRI 情報記録機能を設定する(4CHモードのみ)

ファイル形式がBWFで録音する際に、録音したときのXRI 情報 (eXtended Recording Information、入力ボリューム等の録音設定情報) を記録することができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **システム設定** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
システム設定画面が表示されます。
3. ホイールを使って **XRIモード** 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。



4. ホイールを使って、XRI 情報記録機能のモードを設定します。
選択肢：
切 : XRI 情報を記録しない
入 (初期値) : XRI 情報のみを記録する
入+GPS : XRI 情報とGPS情報を記録する
5. ENTER/MARKボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が完了したら、■/HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

GPS情報は、専用アプリケーション (DR CONTROL) から取得します。そのため、本体のみでは情報を取得することはできません。取得する情報は、以下になります。

緯度 : 緯度情報
経度 : 経度情報

XRI 情報を見る (4CHモードのみ)

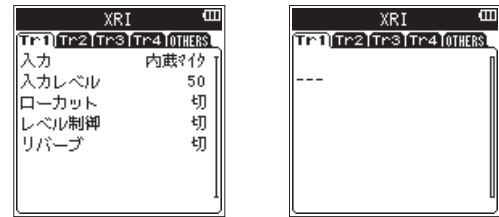
BWF対応WAVファイルに記録したXRI 情報およびGPS情報を HRI 画面で確認することができます。

以下の手順で HRI 画面を表示します。

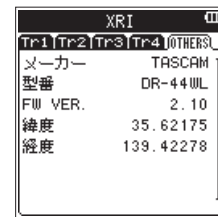
1. ◀◀ボタンまたは▶▶ボタン、もしくは **ファイルブラウザ** 画面で、XRI 情報を見たいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。
3. ホイールを使って **HRI** 項目を選択 (反転表示) します。



4. ENTER/MARKボタンを押すと HRI 画面が表示され、以下のXRI 情報が表示されます。
XRI 情報が記録されていない場合は、「 --- 」と表示されます。



5. ◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押すと各タブ画面の表示に切り換わり、各トラックのXRI 情報が表示されます。OTHERS タブ画面を選択すると、以下の本体情報が表示されます。



6. ■/HOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

XRI 情報を削除する (4CHモードのみ)

XRI 情報またはGPS情報を削除します。

1. HRI 画面を表示中に**QUICK**ボタンを押して、クイックメニューをポップアップ表示します。



2. ホイールを使って、削除する情報の範囲を選択 (反転表示) します。
選択肢
全データ消去 : XRI 情報とGPS情報を削除します。
GPSデータ消去 : GPS情報のみを削除します。
3. ENTER/MARKボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



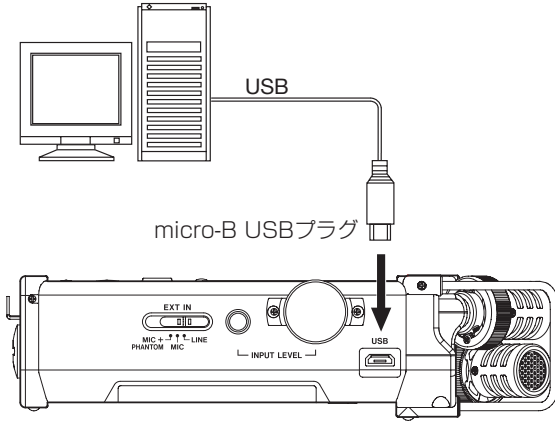
4. ENTER/MARKボタンを押すと、選択した範囲の情報が消去され、ホーム画面に戻ります。
■/HOMEボタンを押すと、データの消去は中止されホーム画面に戻ります。

第11章 パソコンと接続する

本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

- WAV : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット
- BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット
- MP3 : 44.1k/48kHz, 32k/64k/96k/128k/192k/256k/320kbps

パソコン



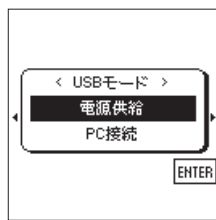
メモ

- 本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。
- WAV / BWFファイルの拡張子は、どちらも**«.wav**となります。

注意

- USBを接続し「PC接続」を選択（反転表示）した場合は、本機の操作はできません。
- パソコンとの接続は、ハブを経由せずに直接接続してください。

電源がオンのときにUSB接続すると、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで本機を動作させるか、パソコンとUSB接続するかを選択する **USBモード** 画面が表示されます。



ホイールを使って「**PC接続**」を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押すと本機がパソコンに接続され、ディスプレイに「**USB 接続中**」が表示されます。



本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

メモ

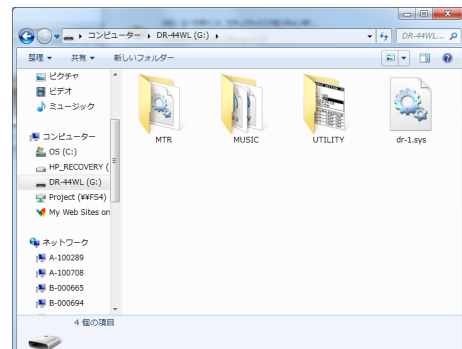
電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます。（USBバスパワー優先）

SDカードが正しく挿入されていない状態でUSB接続を行うと、「保存できません」というポップアップメッセージが表示されます。

《コンピュータ》を開くと、パソコンのディスプレイ上に本機が《DR-44WL》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレイ上の《DR-44WL》ドライブをクリックすると、《MTR》フォルダーと《MUSIC》フォルダー、および《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. 《MTR》フォルダーまたは《MUSIC》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。



パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレイ上の《DR-44WL》ドライブをクリックすると、《MTR》フォルダーと《MUSIC》フォルダー、および《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを《MTR》フォルダーまたは《MUSIC》フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、《MTR》フォルダーおよび《MUSIC》フォルダー内を管理することができます。
- 《MUSIC》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上や ファイルブラウザ 画面上に表示されます。

注意

- 《UTILITY》フォルダーは、本機のシステムをアップデートするときなどに使われます。
- 《MTR》フォルダーに含まれる個々のファイルに対して、名前の変更や削除などを行わないでください。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。

シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

第12章 Wi-Fiを使う

注意

本製品は、販売地域での法令および規制に準拠するように設計されており、必要に応じた表示がされています。

本製品は、以下の国/地域での使用が承認されています。

アメリカ合衆国、カナダ、欧州（EU加盟国）、オーストラリア、ニュージーランド、日本

上記以外の国々において無線機能を使用した場合、一部の国ではその国の電波法に違反となる恐れがあります。

上記以外の国々においての使用については、当社は一切の責任を負いかねます。

ヒント

Wi-Fi使用中は電池の消耗が早くなります。

データ転送中に電池がなくなると転送が途中で終了し、転送失敗の恐れがあります。

Wi-Fi使用時には、ACアダプターまたはUSBバスパワーのご使用をおすすめします。

本機とスマートフォンをWi-Fiで接続する

無料の専用アプリケーション（DR CONTROL）を使って、本体を遠隔操作することができます。

再生、停止などのトランスポートコントロールだけでなく、入力レベルの調整や録音したファイルの転送などもWi-Fi経由で行うことができます。

専用アプリケーション（DR CONTROL）の入手・インストール方法

1. スマートフォンをインターネットに接続してください。
2. Android端末の場合はGoogle Playから、iOS端末の場合はApp Storeから専用アプリケーション（DR CONTROL）を検索し、ダウンロードおよびインストールを実施してください。

Wi-Fiモードの選択

使用環境に合わせて、2つの接続方式が選択可能です。

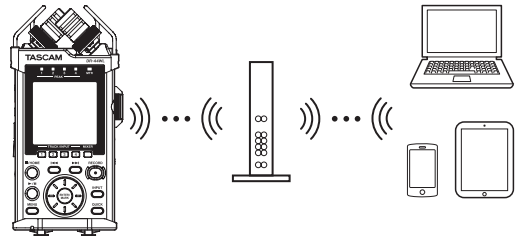
直接接続モード

本機がアクセスポイントとして働き、パソコンやスマートフォンなどの外部機器と本機をWi-Fi接続することが可能です。



ルーター経由モード

既存のWi-Fiルーターを介してパソコンやスマートフォンなどの外部機器とWi-Fi接続することにより、より自由度の高い設置が可能です。また、インターネットとの同時接続が可能になり、ファイルの共有、位置情報の確認等がより快適に行えます。



本機と外部機器（スマートフォン/タブレット/パソコン）を直接Wi-Fi接続する（直接接続モード）

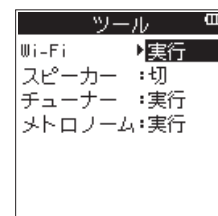
本機とスマートフォン・タブレット端末の1対1での接続となりますので、ルーターなどの外部機器、およびWi-Fiネットワーク環境は必要ありません。

メモ

直接接続モードでのWi-Fi接続中は、スマートフォン・タブレット端末を外部のWi-Fiネットワークに接続することはできません。

Wi-Fiモードを直接接続に設定する

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ツール画面が表示されます。
3. ホイールを使って Wi-Fi 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。Wi-Fi 項目の「実行」が反転表示になります。



4. ENTER/MARKボタンを押して、Wi-Fi画面を表示します。
5. ホイールを使って モード 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
6. ホイールを使って、Wi-Fiモードを「直接接続」に設定し、ENTER/MARKボタンを押して設定を確定します。

選択肢：直接接続（初期値）、ルーター経由



本機とスマートフォン・タブレット端末をはじめてWi-Fi接続する

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか？」が表示されます。
2. はじめての接続なので、ENTER/MARKボタンを押します。



3. ディスプレーに「SSID」と「パスワード」が表示されます。



メモ

「SSID」とは、無線LANにおけるアクセスポイント（無線LAN機器）の名称です。

4. 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。



[iOS 端末の表示例]



[Android 端末の表示例]

5. 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。



[iOS 端末の表示例]



[Android 端末の表示例]

6. 端末にパスワード入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力します。
7. 本機とスマートフォンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

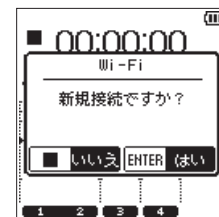
メモ

上記の端末の操作説明は、スマートフォンの設定例です。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

本機とスマートフォン・タブレット端末をWi-Fi接続する場合（2回目以降）

一度接続を行った本機とスマートフォンにおいては、2回目以降はSSIDを選択するだけで接続することができます。

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか？」が表示されます。
2. 一度接続を行ったスマートフォンと接続をするので、■/HOMEボタンを押します。



3. ディスプレーのポップアップメッセージが消え、スマートフォンとの接続待ち状態になります。
4. 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。
5. 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
6. 本機とスマートフォンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

メモ

上記の端末の操作説明は、スマートフォンの設定例です。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

第12章 Wi-Fiを使う

Wi-Fi接続情報を確認する

1. Wi-Fi 画面を表示中にホイールを使って **情報** 項目を選択し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
情報 項目の「実行」が反転表示になります。



2. ENTER/MARKボタンを押して、**情報** 画面を表示します。



「SSID」と「パスワード」の情報が表示されます。
「SSID」は、Wi-Fiネットワーク上で本機を識別するための名前です。
「パスワード」は、本機とWi-Fi接続するときに必要となるパスワードです。

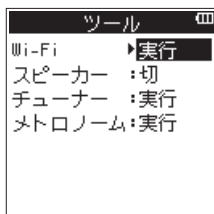
メモ

パスワードは、RECORDボタンを押すことにより変更可能です。

本機と外部機器（スマートフォン／タブレット／パソコン）をルーターを経由してWi-Fi接続する（ルーター経由モード）

Wi-Fiモードをルーター経由に設定する

1. MENUボタンを押して、メニュー 画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
ツール 画面が表示されます。
3. ホイールを使って Wi-Fi 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
Wi-Fi 項目の「実行」が反転表示になります。



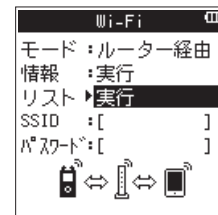
4. ENTER/MARKボタンを押して、Wi-Fi 画面を表示します。
5. ホイールを使って **モード** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

6. ホイールを使ってWi-Fiモードを「ルーター経由」に設定し、ENTER/MARKボタンを押して設定を確定します。
選択肢: 直接接続（初期値）、ルーター経由



本機と外部ルーターを接続する

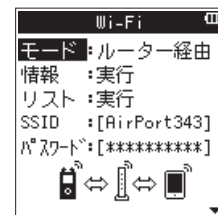
1. Wi-Fi 画面を表示中にホイールを使って **リスト** 項目を選択し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
リスト 項目の「実行」が反転表示になります。



2. ENTER/MARKボタンを押して、SSIDリスト 画面を表示します。



3. SSIDリスト 画面に表示されたリストから、接続したいルーターをホイールを使って選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押して設定します。



4. SSID 項目に選択されたSSIDが表示されます。

メモ

SSIDは、Wi-Fi 画面の SSID 項目で直接入力することも可能です。
その際は、SSID 項目で◀◀ボタンまたは▶▶ボタンでカーソルを移動し、ホイールを使って文字を設定します。
ENTER/MARKボタンを押して、SSIDを確定します。

5. Wi-Fi 画面を表示中にホイールを使って **パスワード** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
6. パスワード 項目で◀◀ボタンまたは▶▶ボタンでカーソルを移動し、ホイールを使ってルーターのパスワード（暗号キー）を入力します。

ENTER/MARKボタンを押して、ルーターのパスワード（暗号キー）を確認します。

- 以下のメッセージが表示されたら、ルーターとの接続成功です。本体のWi-Fiインジケーターが点灯します。



- 以下のメッセージが表示されたら、ルーターとの接続失敗です。正しいパスワードを入力してください。



メモ

- 外部ルーターのパスワード（暗号キー）は多くの場合、ルーター本体のラベルや取扱説明書などに記載してあります。
- 接続に成功したルーターに関しては、2回目以降は本体のWi-Fiボタンを押すだけで、再接続が可能です。また、最後に接続した2件までのパスワードは本体に記憶されます。

スマートフォンなどと外部ルーターを接続する

- 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。



[iOS 端末の表示例]



[Android 端末の表示例]

- 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、使用する外部ルーターのSSIDを選択してください。



[iOS 端末の表示例]

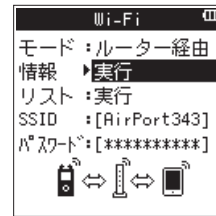


[Android 端末の表示例]

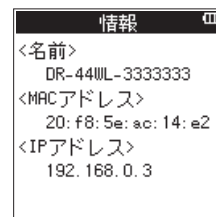
- 使用する外部ルーターのパスワードを入力します。スマートフォンと外部ルーターのWi-Fi接続が確立されます。

Wi-Fi接続情報を確認する

- Wi-Fi 画面を表示中にホイールを使って **情報** 項目を選択し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。**情報** 項目の「実行」が反転表示になります。



- ENTER/MARKボタンを押して、**情報** 画面を表示します。



「名前」、「MACアドレス」と「IPアドレス」の情報が表示されます。「名前」は、DR CONTROLで本機を操作するときを選択していただく名前です。「MACアドレス」は、本機に割り当てられているMACアドレスを表示します。「IPアドレス」は、ルーターから割り当てられたWi-Fiネットワーク上の番号です。

DR CONTROLを起動する

- Wi-Fi接続が完了したら、スマートフォンなどにインストール済のDR CONTROLを起動してください。

メモ

DR CONTROLは、常に最新のバージョンをご使用ください。

- アプリケーションを起動させると以下のような画面が表示され、本機のリモート操作を行うことができます。



[iOS 端末の表示例]

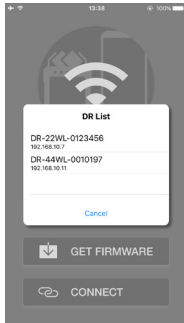


[Android 端末の表示例]

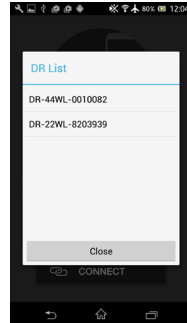
第12章 Wi-Fiを使う

ルーター経由モード時に、複数台のDR-44WL / DR-22WLが同じルーターに接続されている場合

1. アプリケーションを起動させ、しばらくすると《DR List》が表示されます。
コントロールするDR-44WLを選択してください。



[iOS 端末の表示例]



[Android 端末の表示例]

2. 《DR is not found》と表示された場合は、《OK》ボタンを押したあとに《CONNECT》ボタンを押して、再度リストを取得してください。



[iOS 端末の表示例]



[Android 端末の表示例]

端末の詳細な説明は、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

《DR CONTROL》アプリケーションの詳細な説明は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができる「DR CONTROL リファレンスマニュアル」をご参照ください。

本機とパソコンをWi-Fiで接続する

無料の専用ソフトウェア(TASCAM DR FILE TRANSFER)を使って、本体をパソコンにファイルの転送をすることができます。録音したファイルの転送をWi-Fi経由で行うことができます。

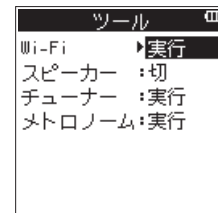
専用ソフトウェア (TASCAM DR FILE TRANSFER) の入手・インストール方法

1. パソコンをインターネットに接続してください。
2. TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードし、インストールを実施してください。

DR-44WLとパソコンを直接Wi-Fi接続する (直接接続モード)

Wi-Fiモードを直接接続に設定する

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って ツール メニュー項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ツール画面が表示されます。
3. ホイールを使って Wi-Fi 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。Wi-Fi 項目の「実行」が反転表示になります。



4. ENTER/MARKボタンを押して、Wi-Fi画面を表示します。
5. ホイールを使って モード 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンを押します。
6. ホイールを使って、Wi-Fiモードを「直接接続」に設定し、ENTER/MARKボタンを押して設定を確定します。
選択肢: 直接接続 (初期値)、ルーター経由



7. DR本体のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続かどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか?」が表示されます。
8. はじめての接続なので、ENTER/MARKボタン (はい) を押します。



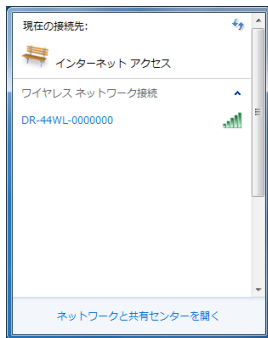
9. ディスプレーにSSIDとパスワードが表示されます。



メモ

SSIDとは、無線LANにおけるアクセスポイント（無線LAN機器）の名称です。

10. パソコンのタスクバー／メニューバー（Windows / Mac）の無線接続アイコンをクリックすることで、ワイヤレスネットワークの一覧が表示されます。

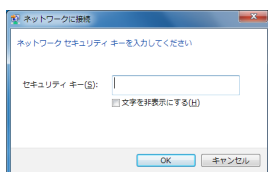


[Windows 画面]



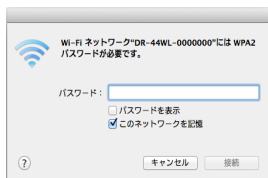
[Mac 画面]

11. 本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
 12. パソコンにセキュリティーキー入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力してください。



[Windows 画面]

パソコンにパスワード入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力してください。



[Mac 画面]

13. 本機とパソコンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

本機とパソコンをWi-Fi接続する場合（2回目以降）

一度接続を行った本機とパソコンにおいては、2回目以降はSSIDを選択するだけで接続することができます。

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか?」が表示されます。
2. 一度接続を行ったパソコンと接続をするので、ENTER/MARKボタンを押します。



3. ディスプレーのポップアップメッセージが消え、パソコンとの接続待ち状態になります。
4. パソコンのタスクバー／メニューバー（Windows / Mac）の無線接続アイコンをクリックすることで、ワイヤレスネットワークの一覧が表示されます。
5. 本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
6. 本機とパソコンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

ヒント

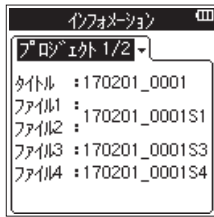
ルーター経由モードを使用したDR-44WLとパソコンをルーター経由でWi-Fi接続する方法、その他ソフトウェアの詳細な説明は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができる「TASCAM DR FILE TRANSFER 取扱説明書」をご参照ください。

第13章 各種設定および情報表示

情報を見る（インフォメーション）

インフォメーション画面で、本機の各種情報を見ることができます。以下の手順でインフォメーション画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使ってシステム設定項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。システム設定画面を表示されます。
3. ホイールを使ってインフォメーション項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。インフォメーション項目の「実行」が反転表示になります。
4. ENTER/MARKボタンを押して、インフォメーション画面を表示します。

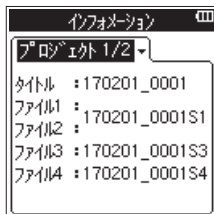


インフォメーション画面には、以下のページがあります。

5. ホイールを使って、ページを切り換えます。各ページには、以下の情報が表示されます。
 - プロジェクト 1/2 ページ (4CHモードのみ) :
現在ロードされているプロジェクトの各オーディオファイル名を表示
 - プロジェクト 2/2 ページ (4CHモードのみ) :
現在ロードされているプロジェクトの各種情報を表示
 - カード ページ :
セットしているSDカードの使用状況を表示
 - システム ページ :
本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

プロジェクト情報ページ1 (プロジェクト 1/2、4CHモードのみ)

プロジェクト 1/2 ページでは、現在ロードされているプロジェクトの各オーディオファイル名を表示します。



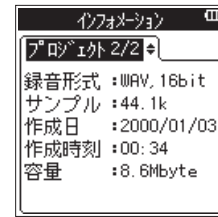
タイトル／ファイル1-4

ファイル名を表示します。

MP3ファイルでID3タグのタイトル情報がある場合は、その情報を表示します。

プロジェクト情報ページ2 (プロジェクト 2/2、4CHモードのみ)

プロジェクト 2/2 ページでは、現在ロードされているプロジェクトの各種情報を表示します。



録音形式

オーディオファイルの形式を表示します。

WAV / BWFファイルの場合は、ビット長、サンプリング周波数 (Hz) を表示します。

MP3ファイルの場合は、ビットレート (kbps)、CBR / VBR、サンプリング周波数 (Hz) を表示します。(CBR: 固定ビットレート、VBR: 可変ビットレート)

日時

ファイルの日付を表示します。

作成時刻

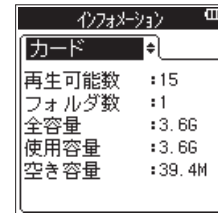
ファイルの作成時間を表示します。

容量

ファイルサイズを表示します。

カード情報ページ (カード)

カード ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。



再生可能数

MUSICフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

フォルダ数

MUSICフォルダー内にあるフォルダ数を表示します。

全容量

SDカードの総メモリー容量を表示します。

使用容量

SDカードの使用量を表示します。

空き容量

SDカードの残容量を表示します。

システム情報ページ (システム)

システム ページでは、本機のファームウェアバージョンを表示します。



ファームウェア

システムファームウェアのバージョン情報を表示します。

Wi-Fi

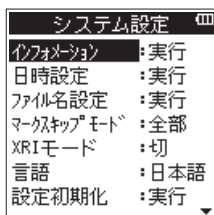
Wi-Fiファームウェアのバージョン情報を表示します。

環境設定 (システム設定)

本機の初期化やSDカードのフォーマットなどを、システム設定 画面で行います。

以下の手順でシステム設定 画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、メニュー 画面を表示します。
2. ホイールを使ってシステム設定 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。システム設定 画面を表示されます。



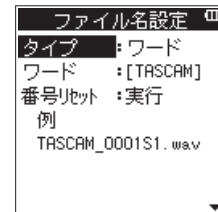
◀◀ボタンと▶▶ボタン、ENTER/MARKボタンおよびホイールを使って、各項目の設定をします。

システム設定 画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイル名の形式を設定することができます。

1. ホイールを使ってファイル名設定 項目を選択 (反転表示) し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。ファイル名設定 項目の「実行」が反転表示になります。
2. ENTER/MARKボタンを押して、ファイル名設定 画面を表示します。



3. ◀◀ボタンと▶▶ボタン、ENTER/MARKボタンおよびホイールを使って、各項目の設定をします。この画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

ファイル名の形式

タイプ 項目で、日付 か ワード かを設定します。

選択肢:

- | | |
|----------|--|
| 日付 (初期値) | : 日付をファイル名に付けます。
(例) 140101_0001S12.wav |
| ワード | : ワード で設定した6文字をファイル名に付けます。
(例) TASCAM_0001S12.wav |

メモ

日付は、本体内の時計を元に設定されます。(→ 16ページ「日時を設定する」)

文字 (ワード) の設定

ワード 項目で、◀◀ボタンと▶▶ボタンでカーソルを移動し、ホイールを使ってを回して文字を設定します。

文字は、英数の他に、記号「! # \$ % & ' () + , - . : ; = @ [] ^ _ ` { } ~」が使用可能です。

数字 (番号リセット) の初期化設定

番号リセット 項目でENTER/MARKボタンを押して実行すると、この以降のファイル作成時よりワード 項目で設定した文字に続く数字部分が、0001 から始まります。

第13章 各種設定および情報表示

言語を選択する

言語 項目で、ディスプレイに表示される言語を切り換えることができます。

1. ホイールを使って **言語** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。

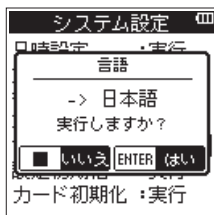


2. ホイールを使って、ディスプレイに表示する言語を設定します。

選択肢

ENG	: 英語で表示
日本語	: 日本語で表示
FRA	: フランス語で表示
ESP	: スペイン語で表示
DEU	: ドイツ語で表示
ITA	: イタリア語で表示
RUS	: ロシア語で表示

3. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

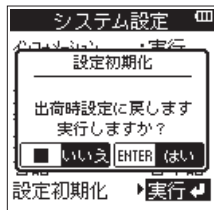


4. **ENTER/MARK**ボタンを押して、言語設定を実行します。
言語選択をしない場合は、**■/HOME**ボタンを押します。

初期設定に戻す

設定初期化 項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。

1. ホイールを使って **設定初期化** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
設定初期化 項目の「**実行**」が反転表示になります。
2. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. **ENTER/MARK**ボタンを押して、イニシャライズを実行します。
イニシャライズしない場合は、**■/HOME**ボタンを押します。

SDカードをフォーマットする

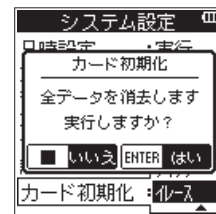
カード初期化 項目で、SDカードをフォーマットします。
フォーマットを行うと、カード上の全ての音楽ファイルが消去され、**《MTR》**フォルダーと**《MUSIC》**フォルダー、**《UTILITY》**フォルダーおよび**《dr-1.sys》**が自動生成されます。

1. ホイールを使って **カード初期化** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**▶▶**ボタンを押します。
2. フォーマット方法を選択します。

選択肢	内容
クイック (初期値)	クイックフォーマットを実行します。
イレース	イレースフォーマットを実行します。

メモ

- イレースフォーマットを実行すると、繰り返し使用で書き込み性能が劣化したSDカードを復活させる可能性があります。
 - イレースフォーマットは、メモリーのエラーをチェックしながらフォーマットを実行するため、クイックフォーマットと比べて多くの時間がかかります。
3. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. **ENTER/MARK**ボタンを押して、フォーマットを実行します。
フォーマットしない場合は、**■/HOME**ボタンを押します。

注意

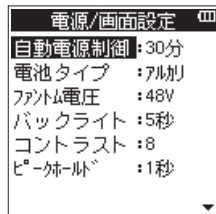
フォーマットの実行は、付属の専用ACアダプター (GPE053B) を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。
フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

電源／ディスプレイの設定（電源/画面設定）

本機の電源やディスプレイの設定を、**電源/画面設定** 画面で行います。

以下の手順で **電源/画面設定** 画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. ホイールを使って **電源/画面設定** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶ボタンを押します。
電源/画面設定 画面が表示されます。



3. ◀◀ボタンと▶▶ボタン、ENTER/MARKボタンおよびホイールを使って、各項目の設定をします。
電源/画面設定 画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

電源のオートパワーセーブ機能の設定

自動電源制御 項目で最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフ（スタンバイ状態）になるまでの時間を設定します。

選択肢：切（自動オフしない）、3分、5分、10分、30分（初期値）

電池の種類の設定

電池タイプ 項目で、使用する電池の種類を設定します。
この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

選択肢：アルカリ（アルカリ乾電池、初期値）、Ni-MH（ニッケル水素電池）

ファントム電源の電圧値の設定

ファントム電圧 項目で、ファントム電源を必要とする外部マイクを接続して使用するときの供給電源電圧値を設定します。

選択肢：+24V、+48V（初期値）

メモ

+48V に設定した場合、+24V よりも電池の消耗が早くなります。

バックライトの設定

バックライト 項目で電池供給のときに、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：切（消灯）、5秒（初期値）、10秒、15秒、30秒、常時（常に点灯）

ディスプレイのコントラスト調節

コントラスト 項目でディスプレイのコントラストを調節します。

選択肢：1～20（初期値：8）

ピークホールドの設定

ピークホールド 項目でレベルメーターのピーク表示の設定を行います。

選択肢：切、1秒（初期値）、ホールド

第14章 メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-44WLでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
電池残量がありません	電池の残量がありません。電池を交換してください。
分割できません	DIVIDE実行時に分割位置が適切ではありません。(ファイルの先頭、ファイルの最後)
カードエラー	SDカードを正常に認識できません。カードを交換してください。
カード残量がありません	SDカードの残容量がありません。不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
MP3非対応の機能です	MP3ファイルの分割はできません。
同名ファイルがあります	ファイル分割により作成されるファイルと同じファイル名のファイルが同じフォルダー内にすでに存在します。ファイル分割を行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。ファイル分割を行う前にパソコンと接続し、ファイル名を変更してください。
ファイル総数制限に到達	フォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)を超えました。不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
ファイル名が不正です	ファイル分割によりファイル名の文字数が200文字を超えました。ファイル分割を行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。ファイル分割を行う前にパソコンと接続し、198文字以下のファイル名に変更してください。
ファイルが見つかりません	ファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
ファイルがありません システムを再構築します	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態でENTER/MARKボタンを押すと、システムファイルが作られます。
ファイルが保護されています	読み取り専用ファイルのため、削除できません。
フォーマットエラー SDを初期化します	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。フォーマットは、必ずDR-44WL本体で行ってください。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でENTER/MARKボタンを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。

メッセージ	内容と対処方法
SDカードエラー 交換してください	SDカードが正常でない可能性があります。SDカードを交換してください。
システムファイルエラー システムを再構築します	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常ではありません。このメッセージが表示されている状態でENTER/MARKボタンを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
間隔が短すぎます	IN点(始点)とOUT点(終点)の間隔が短すぎます。1秒以上空けて設定してください。
電池残量が少ないため Wi-Fiをオフにします	電池残量が少なくWi-Fi機能が使用できません。新しい電池に交換してください。
録音時間の制限に到達	ファイルのサイズが指定のサイズを超えました。あるいは、フォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)の時に録音時間が24時間を超えました。
HBRエラー SDを初期化します	SDカードが正常にフォーマットされていないか、SDカードが壊れている可能性があります。SDカードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でENTER/MARKボタンを押すと、フォーマットが実行されます。フォーマットが実行されるとSDカード内のデータは、全て消去されます。
カードがありません	SDカードがセットされていません。録音可能なSDカードを挿入してください。
再生できるファイルがありません	再生可能なファイルがありません。ファイルが壊れている可能性があります。
動作対象外ファイル	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については、56ページ「第11章 パソコンと接続する」をご覧ください。
書き込み速度不足です	SDカードへの書き込みが間に合いませんでした。ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
保存できません	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れ直してください。
機器エラー	電源を切ることができない場合は、電池や付属の専用ACアダプター(GPE053B)を取り外す、または
ファイルエラー発生 エラーが発生しました	USBバスパワー供給時はUSBケーブルを外してください。
再生エラー	これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。
書き込みに失敗しました	
システムエラー	
システムエラー ### (###は数字が入ります)	

第15章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違ってセットしていませんか？
- 付属の専用ACアダプター（GPE053B）の電源プラグおよびUSBコネクタがしっかりと差し込まれていますか？
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBハブを使用していませんか？

電源が自動的に切れてしまう。

- オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？（→ 67ページ「電源のオートパワーセーブ機能の設定」）
 - 本機は欧州待機時電力規制（ErP）に対応しているため、ACアダプター・電池使用時にかかわらずオートパワーセーブ機能が動作します。オートパワーセーブ機能を使用したくないときは「OFF」に設定してください（工場出荷時には「30分」に設定されています）。

本体で操作できない。

- HOLD/ ㊟/ スイッチが「HOLD」にセットされていませんか？
- USB接続になっていませんか？

SDカードを認識しない。

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。
- MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

内蔵スピーカーから音が出ない。

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- スピーカー 項目が「切」になっていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

音が出ない。

- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出力レベル設定が最小になっていませんか？

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 入力レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数に達していませんか？

入力レベルが低い。

- 入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出力レベルが低くなっていませんか？

録音しようとする音が歪んで聴こえる。

- 入力レベルの設定が大きすぎませんか？
- リバースがかかっていますか？

再生音が不自然に聴こえる。

- 再生のスピードを変えていませんか？
- レベルアライン機能が有効になっていませんか？
- リバースがかかっていますか？

ファイルが消去できない。

- パソコンで読み取り専用を設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

パソコン上に本機のファイルが表示されない。

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

Wi-Fi接続ができない、あるいは、通信が途切れる。

- Wi-Fi機器の電源が入っているか、Wi-Fiがオンになっているか確認してください。
- Wi-Fi機器との距離が離れすぎいませんか？
あるいは、間に壁や障害物などでさえぎられていませんか？
Wi-Fi機器が本体の後面側にある場合、本機自身でさえぎっていることも考えられます。
Wi-Fi機器や本機の位置を変えてください。
- 本機の電源を切り、再度本機の電源をオンにしてください。
- Wi-Fi機器の「DR-44WL」の登録を解除し「Wi-Fi機器との接続を行う」の操作を行ってください。
- DR CONTROLアプリケーションを再起動してください。
- ルーター経由モードを使用している場合は、
 - Wi-Fiルーターに接続するその他のデバイスを解放してください。
 - Wi-Fiルーターの設置場所を変えてください。

第16章 仕様

定格

記録メディア

- SDカード (64MB ~ 2GB)
- SDHCカード (4GB ~ 32GB)
- SDXCカード (48GB ~ 128GB)

録音再生フォーマット

- BWF : 44.1k/48k/96kHz、16/24ビット
- WAV : 44.1k/48k/96kHz、16/24ビット
- MP3 : 44.1k/48kHz、32k/64k/96k/128k/192k/256k/320kbps

チャンネル数

4チャンネル

- 4CHモード
 - モノ : 最大4ファイル
 - ステレオ : 最大2ファイル
 - ステレオ (1ファイル) +モノ (最大2ファイル)
- MTRモード
 - モノ : 最大4ファイル

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

EXT MIC/LINE IN 端子 (ファントム電源対応)

- コネクタ : コンボタイプ
- XLR-3-31
 - (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
- 6.3mm (1/4") TRS標準ジャック
 - (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

EXT INスイッチ「MIC」時、「MIC+PHANTOM」時

- 入力インピーダンス : 2.2k Ω 以上
- 基準入力レベル : -17.3dBu \pm 2dB
- 最大入力レベル : -1.3dBu \pm 2dB

EXT INスイッチ「LINE」時

- 入力インピーダンス : 2.2k Ω 以上
- 基準入力レベル : +4dBu
- 最大入力レベル : +20dBu

Ω /LINE OUT 端子

- コネクタ : 1/8" (3.5mm) ステレオミニジャック
- 出力インピーダンス : 12 Ω
- 基準出力レベル : -14dBV (10k Ω 負荷時)
- 最大出力レベル : +2dBV (10k Ω 負荷時)
- 最大出力 : 20mW+20mW (ヘッドホン接続時、32 Ω 負荷時)

内蔵スピーカー

- 0.3W (モノラル)

コントロール入出力定格

USB端子

- コネクタ : Micro-Bタイプ
- フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED マスストレージクラス

オーディオ性能

周波数特性

- 20-20kHz +1/-3dB
(EXT IN to LINE OUT、Fs44.1kHz、JEITA)
- 20-22kHz +1/-3dB
(EXT IN to LINE OUT、Fs48kHz、JEITA)
- 20-40kHz +1/-3dB
(EXT IN to LINE OUT、Fs96kHz、JEITA)

歪率

- 0.05%以下
(EXT IN to LINE OUT、Fs44.1k/48k/96kHz、JEITA)

S/N比

- 92dB以上
(EXT IN to LINE OUT、Fs44.1k/48k/96kHz、JEITA)
- 注) JEITA : JEITA CP-2150準拠

Wi-Fi

無線規格

- IEEE 802.11b/g/n準拠 (2.4GHzのみ)

無線通信モード

- 直接接続モード
 - 簡易アクセスポイント (Limited AP)
- ルーター経由モード
 - インフラストラクチャー (Station)

セキュリティ

- WPA2-PSK (WPS2.0対応)

一般

電源

- 単3形電池4本 (アルカリ乾電池またはニッケル水素電池)
- パソコンからのUSBバスパワー
- 専用ACアダプター (GPE053B、付属)
- 専用ACアダプター (TASCAM PS-P520E、別売)

消費電力

- 2.5W (最大時)

電池持続時間（連続使用時）

- アルカリ乾電池（EVOLTA）使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約13時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約16時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約14時間	内蔵ステレオマイク入力時
4ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約13時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約13.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約13.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時+ファントム電源オン時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約5.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時+Wi-Fiオン時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約15.5時間	ヘッドホン使用時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約16時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

- ニッケル水素電池（eneloop）使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約10.5時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約12.5時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約10時間	内蔵ステレオマイク入力時
4ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約10.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約11.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約11時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時+ファントム電源オン時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約5.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時+Wi-Fiオン時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約12.5時間	ヘッドホン使用時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約12時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

メモ

電池持続時間（連続動作時）は、お使いの記録メディアにより記載された値から変動することがあります。

外形寸法

79 x 162.2 x 42.5mm（幅 x 高さ x 奥行き）

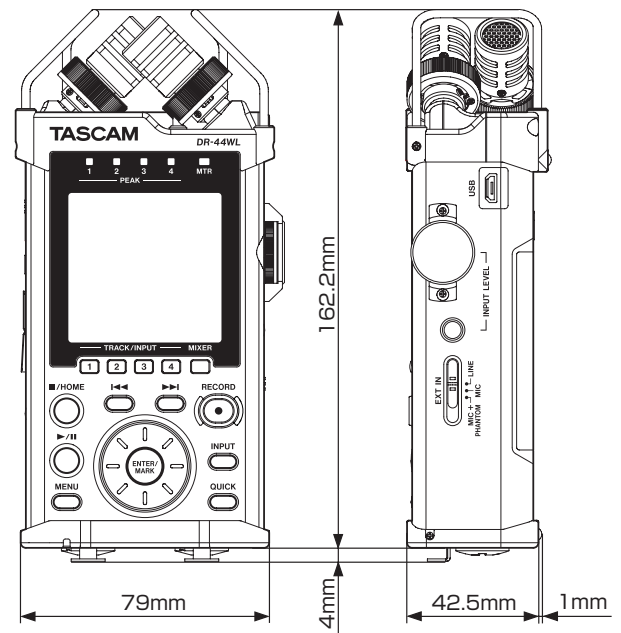
質量

346g / 251g（電池を含む / 電池を含まず）

動作温度

0 ~ 40℃

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<https://tascam.jp/jp/>